

開會 午後一時十八分

○副委員長男爵福原俊丸 開會ヲ宣告ス

○副委員長男爵福原俊丸 散會ヲ命ス

散會 午後四時二十一分

第四回 大正十年三月二十日

出席委員

鐵道省工務局長	岡野 昇
鐵道省工作局長	高洲 清二
鐵道省經理局長	別府 丑太郎
副委員長男爵	福原 俊丸
委員 子爵	青木 信光
同 子爵	新庄 直知
同	大島 健一
同	小松 謙次郎
同	古市 公威
同	中村 是公
同	斯波 忠三郎
同 男爵	黒川 幹太郎
同	辻 太郎

出席國務大臣

橋本 圭三郎

同

麻生 太吉

出席政府委員

鐵道大臣

元田 肇

陸軍次官

山梨 半造

鐵道省監督局長

井出 繁三郎

鐵道省運輸局長

中川 正左

鐵道省建設局長

大村 銚太郎

鐵道省工務局長

岡野 昇

鐵道省工作局長

高洲 清二

鐵道省經理局長

別府 丑太郎

開會 午後一時五十五分

○副委員長男爵福原俊丸 開會ヲ宣告ス

○副委員長男爵福原俊丸 散會ヲ命ス

散會 午後四時十五分

第五回 大正十年三月二十四日

出席委員

副委員長男爵	福原俊九	委員子爵	青木信光
同 子爵	新庄直知	同	大島健一
同	小松謙次郎	同 男爵	古市公威
同	荒井賢太郎	同	中村是公
同 男爵	斯波忠三郎	同 男爵	黒川幹太郎
同 男爵	辻太郎	同	橋本圭三郎
同	片岡直輝	同	麻生太吉

出席國務大臣

鐵道大臣

元田肇

出席政府委員

鐵道省監督局長

井出繁三郎

鐵道省運輸局長	中川正左
鐵道省建設局長	大村鋪太郎
鐵道省工務局長	岡野昇
鐵道省工作局長	高洲清二
鐵道省經理局長	別府丑太郎

開會 午後三時二十七分

○副委員長男爵福原俊九 開會ヲ宣告ス

○副委員長男爵福原俊九 散會ヲ命ス

散會 午後五時三十三分

第六回 大正十年三月二十五日

出席委員

副委員長男爵	福原俊九	委員子爵	青木信光
同 子爵	新庄直知	同	大島健一
同	小松謙次郎	同 男爵	古市公威

同

荒井賢太郎

同

中村是公

同

男爵

斯波忠三郎

同

男爵

黒川幹太郎

同

男爵

辻太一郎

同

橋本圭三郎

同

片岡直輝

同

麻生太吉

出席國務大臣

鐵道大臣

元田肇

出席政府委員

鐵道省監督局長

井出繁三郎

鐵道省運輸局長

中川正左

鐵道省建設局長

大村鋪太郎

鐵道省工務局長

岡野昇

鐵道省工作局長

高洲清二

鐵道省經理局長

別府丑太郎

開會 午後一時二十九分

○副委員長男爵福原俊丸 開會ヲ宣告ス

○副委員長男爵福原俊丸 休憩ヲ命ス

休憩 午後二時

開會 午後二時一分

○副委員長男爵福原俊丸 開會ヲ宣告ス

○副委員長男爵福原俊丸 休憩ヲ命ス

休憩 午後四時二十八分

開會 午後四時五十五分

○副委員長男爵福原俊丸 開會ヲ宣告ス

○副委員長男爵福原俊丸 休憩ヲ命ス

休憩 午後六時五十五分

開會 午後八時五十七分

○副委員長男爵福原俊丸 開會ヲ宣告ス

○副委員長男爵福原俊丸 散會ヲ命ス

散會 午後十時二十四分

第七回 大正十年三月二十六日

出席委員

副委員長男爵	福原俊丸	委員子爵	青木信光
同 子爵	新庄直知	同	大島健一
同	小松謙次郎	同	古市公威
同	荒井賢太郎	同	中村是公
同	男爵 斯波忠三郎	同	男爵 黒川幹太郎
同	男爵 辻太郎	同	橋本圭三郎
同	片岡直輝	同	麻生太吉

出席國務大臣

鐵道大臣

元田肇

出席政府委員

鐵道省監督局長

井出繁三郎

鐵道省運輸局長	中川正左
鐵道省建設局長	大村銅太郎
鐵道省工務局長	岡野昇
鐵道省工作局長	高洲清二
鐵道省經理局長	別府丑太郎

開會 午後一時九分

○副委員長男爵福原俊丸 開會ヲ宣告ス

○副委員長男爵福原俊丸 休憩ヲ命ス

休憩 午後三時十九分

開會 午後四時四十三分

○副委員長男爵福原俊丸 開會ヲ宣告ス

○副委員長男爵福原俊丸 休憩ヲ命ス

休憩 午後六時四十分

開會 午後七時五十八分

○副委員長男爵福原俊丸 開會ヲ宣告ス

○副委員長男爵福原俊丸 散會ヲ命ス

○散會 午後八時二分

○附記) 本案ハ本院ニ於テ之ヲ議決スルニ至ラスシテ議會ノ閉會トナレリ

委員長

平井晴二郎 印

副委員長

男爵 福原俊丸 印

煙草專賣法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○大正十年二月二十五日議長ノ指名ヲ以テ煙草專賣法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

侯爵 松平康莊

子爵 本多忠鋒

子爵 大浦兼一

和 田彦次郎

男爵 武井守正

男爵 平野長祥

男爵 小畑大太郎

伊丹彌太郎

二階堂 三郎左衛門

委員長及副委員長選舉

○大正十年三月一日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	侯爵	松平三康
副委員長	子爵	本多忠鋒

會議

第一回 大正十年三月四日

出席委員

副委員長子爵	本多忠鋒	委員子爵	大浦兼一
同	和田彦次郎	同	男爵武井守正
同	男爵平野長祥	同	男爵小畑大太郎
同	伊丹彌太郎	同	二階堂三郎左衛門

出席政府委員

專賣局長官	野中清
-------	-----

開會 午後一時九分

○副委員長子爵本多忠鋒 開會ヲ宣告ス

(參照)

煙草專賣法中改正法律案

煙草專賣法中左ノ通改正ス

第二十條ノ三 煙草耕作者ノ耕作シタル煙草カ移植後收穫前ニ於テ風害、水害又ハ雹害ニ罹リ著シキ損害ヲ被リタルトキハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ煙草耕作者ニ損害ノ一部ニ對スル補償金ヲ交付スルコトヲ得

附則

本法ハ大正十年四月一日以後ニ生シタル損害ニ關スル分ヨリ之ヲ適用ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○副委員長子爵本多忠鋒 休憩ヲ命ス

休憩 午後二時十九分

開會 午後二時二十五分

○副委員長子爵本多忠鋒 開會ヲ宣告ス

○副委員長子爵本多忠鋒 散會ヲ命ス

散會 午後二時二十六分

第二回 大正十年三月十三日

出席委員

副委員長子爵	本多忠鋒	委員子爵	大浦兼一
同	和田彦次郎	同	男爵 武井守正
同	男爵 平野長祥	同	男爵 小畑大太郎
同	伊丹彌太郎	同	二階堂 三郎左衛門

出席政府委員

大藏次官 神野勝之助

出席説明員

專賣局技師 澁谷正良

開會 午後一時二十一分

○副委員長子爵本多忠鋒 開會ヲ宣告ス

○副委員長子爵本多忠鋒 散會ヲ命ス

散會 午後一時三十五分

(附記) 同日議長ニ提出シタル副委員長ノ報告左ノ如シ

煙草專賣法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十年三月十三日

右特別委員副委員長

子爵 本多忠鋒

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 侯爵 松平康莊印
副委員長 子爵 本多忠鋒印

○大正十年二月二十八日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長

服部 一三

副委員長 男爵

村上敬次郎

會議

第一回 大正十年二月二十八日

出席委員

委員長

服部 一三

副委員長男爵

村上敬次郎

委員 男爵

徳川 厚

同 男爵

黒田長和

同 男爵

安藤 直雄

同

岡本榮吉

同

高橋 隆一

出席政府委員

外務省條約局長

山川端夫

大藏次官

神野勝之助

開會 午前十時三十九分

○委員長服部一三 開會ヲ宣告ス

(參照)

獨逸國等トノ平和條約賠償條項ニ基キ受領シタル賠償物件ノ輸入税免除ニ關スル法律案

獨逸國等トノ平和條約賠償條項ニ基キ受領シタル賠償物件ニシテ政府ノ輸入スルモノノ輸入税

ハ之ヲ免除ス

○委員長服部一三

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長服部一三 散會ヲ命ス

散會 午前十一時三十五分

第二回 大正十年三月五日

出席委員

委員長

服部 一三

副委員長男爵

村上敬次郎

委員 子爵

秋田 重季

同 男爵

徳川 厚

同 男爵 黒田 長 和 同 男爵 安藤 直 雄

同 室田 義 文 同 岡本 榮 吉

同 高橋 隆 一

出席政府委員 三月五日

外務省條約局長 山 川 端 夫

大藏省理財局長 小 野 義 一

開會 午前十一時二十二分

○委員長服部二三 開會ヲ宣告ス

○委員長服部二三 散會ヲ命ス

散會 午前十一時五十七分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

獨逸國等トノ平和條約賠償條項ニ基キ受領シタル賠償物件ノ輸入税免除ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十年三月五日

右特別委員長

服 部 一 三

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 服 部 一 三 印

副委員長 男爵 村 上 敬 次 郎 印

大正五年法律第四號中改正法律案特別委員會

大正四年法律第十六號中改正法律案特別委員會

(附記) 右各特別委員會會議錄ハ便宜之ヲ一括ス

委員選舉

○大正十年二月二十五日議長ノ指名ヲ以テ大正五年法律第四號中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

- | | | | | | | | | | | |
|------|----|------|----|------|----|------|------|------|-------|------|
| 柳澤保惠 | 伯爵 | 石塚英藏 | 男爵 | 藤村義朗 | 男爵 | 郷誠之助 | 谷森眞男 | 市來乙彦 | 安田善三郎 | 田中清文 |
|------|----|------|----|------|----|------|------|------|-------|------|

(附記) 大正四年法律第十六號中改正法律案ハ大正十年三月一日連繫事件トシテ其ノ審査ヲ大

正五年法律第四號中改正法律案特別委員ニ付託セラル

委員長及副委員長選舉

○大正十年三月一日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

會議

第二回 大正十年三月十七日

○出席委員

副委員長

谷 森 眞 男

委員

石 塚 英 藏

同 藤 會 村

義 朗

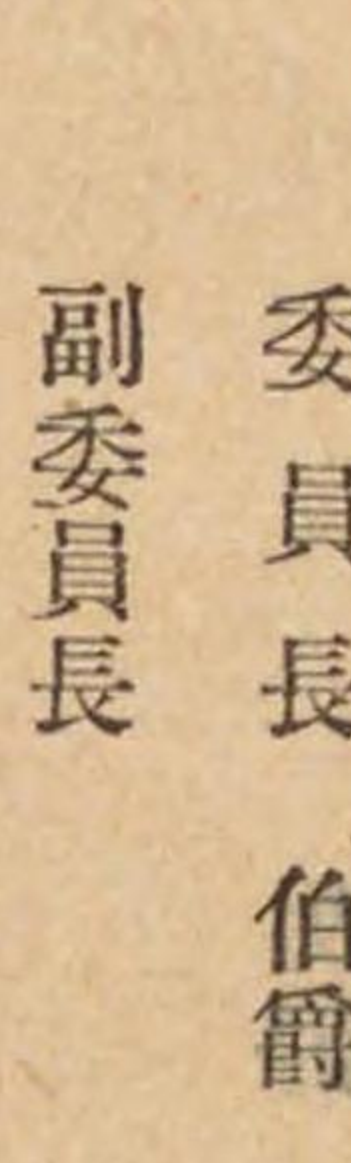
市 來 乙 彦

同 田 中 清 文

同

成 瀨 信 愛

出席政府委員



大藏次官 神野勝之助
大藏書記官 河 田 烈
陸軍次官 山 梨 半 造

大開會 午前十時三十八分

○副委員長谷森眞男 開會ヲ宣告ス

(參照)

大正五年法律第四號中改正法律案

大正五年法律第四號中左ノ通改正ス

「四億八千萬圓」ヲ「五億八千萬圓」ニ改ム

大正四年法律第十六號中改正法律案

大正四年法律第十六號中左ノ通改正ス

「一億八百萬圓」ヲ「一億千五百萬圓」ニ改ム

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○副委員長谷森眞男 散會ヲ命ス

散會 午前十一時十一分

(附記) 同日議長ニ提出シタル副委員長ノ報告左ノ如シ

大正五年法律第四號中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十年三月十七日

右特別委員副委員長

谷 森 眞 男

貴族院議長公爵德川家達殿

大正四年法律第十六號中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十年三月十七日

右特別委員副委員長

谷 森 眞 男

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長	伯爵
副委員長	柳 澤 保 惠 印
	谷 森 眞 男 印

借地法案特別委員會
借家法案特別委員會

(附記) 右各特別委員會會議錄ハ便宜之ヲ一括ス

委員選舉

○大正十年二月二十五日議長ノ指名ヲ以テ借地法案、借家法案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

- | | |
|-------|---------|
| 伯爵 | 寺島誠一郎 |
| 子爵 | 勘解由小路資承 |
| 子爵 | 毛利高範 |
| 子爵 | 永井尙敏 |
| 子爵 | 池田政時 |
| 松室致 | |
| 河村讓三郎 | |
| 内田嘉吉 | |
| 男爵 | 船越光之丞 |

委員長及副委員長選舉

○大正十年三月一日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

男爵	中島久萬吉
男爵	二條正麿
	木内重四郎
	江木翼
	伊藤傳七
	中村圓一郎

委員長 伯爵 寺島誠一郎
副委員長 松室致

會議

第一回 大正十年三月五日

出席委員

委員長 伯爵 寺島誠一郎
副委員長 松室致

委員	子爵 勘解由小路資承	同	子爵 毛利高範
同	子爵 永井尙敏	同	子爵 池田政時
同	男爵 中島久萬吉	同	男爵 二條正麿
同	江木翼	同	伊藤傳七
同	中村圓一郎		

出席政府委員

司法省民事局長 山内確三郎
司法省參事官 池田寅二郎

開會 午後一時十八分

○委員長伯爵寺島誠一郎 開會ヲ宣告ス

(參照)

借地法案

借地法

第一條 本法ニ於テ借地權ト稱スルハ建物ノ所有ヲ目的トスル地上權及賃借權ヲ謂フ

第二條 借地權ノ存續期間ハ石造、土造、煉瓦造又ハ之ニ類スル堅固ノ建物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付テハ六十年、其ノ他ノ建物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付テハ三十年トス但シ建物カ此ノ期間滿了前朽廢シタルトキハ借地權ハ之ニ因リテ消滅ス

契約ヲ以テ堅固ノ建物ニ付三十年以上、其ノ他ノ建物ニ付二十年以上ノ存續期間ヲ定メタルトキハ借地權ハ前項ノ規定ニ拘ラス其ノ期間ノ滿了ニ因リテ消滅ス

第三條 契約ヲ以テ借地權ヲ設定スル場合ニ於テ建物ノ種類及構造ヲ定メサルトキハ借地權ハ堅固ノ建物以外ノ建物ノ所有ヲ目的トスルモノト看做ス

第四條 當事者カ契約ヲ更新スル場合ニ於テハ借地權ノ存續期間ハ更新ノ時ヨリ起算シ堅固ノ建物ニ付テハ三十年、其ノ他ノ建物ニ付テハ二十年トス此ノ場合ニ於テハ第二條第一項但書ノ規定ヲ準用ス

當事者カ前項ニ規定スル期間ヨリ長キ期間ヲ定メタルトキハ其ノ定ニ從フ

第五條 借地權者借地權ノ消滅後土地ノ使用ヲ繼續スル場合ニ於テ土地所有者カ遲滞ナク異議ヲ述ヘサリシトキハ前契約ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ借地權ヲ設定シタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス

第六條 借地權ノ消滅前建物カ滅失シタル場合ニ於テ殘存期間ヲ超エテ存續スヘキ建物ノ築造

ニ對シ土地所有者カ遲滞ナク異議ヲ述ヘサリシトキハ借地權ハ建物滅失ノ日ヨリ起算シ堅固ノ建物ニ付テハ三十年間、其ノ他ノ建物ニ付テハ二十年間存續ス但シ殘存期間之ヨリ長キトキハ其ノ期間ニ依ル

第七條 前二條ノ規定ハ借地權者カ更ニ借地權ヲ設定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第八條 前六條ノ規定ハ臨時設備其ノ他一時使用ノ爲借地權ヲ設定シタルコト明ナル場合ニハ之ヲ適用セス

第九條 第三條カ賃借權ノ目的タル土地ノ上ニ存スル建物ヲ取得シタル場合ニ於テ賃貸人カ賃借權ノ讓渡又ハ轉貸ヲ承諾セサルトキハ賃貸人ニ對シ時價ヲ以テ建物ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第十條 第二條、第四條乃至第七條及前條ノ規定ニ反スル契約條件ニシテ借地權者ニ不利ナルモノハ之ヲ定メサルモノト看做ス

第十一條 地代又ハ借賃カ土地ニ對スル租稅其ノ他ノ公課ノ増減若ハ土地ノ價格ノ昂低ニ因リ又ハ比隣ノ土地ノ地代若ハ借賃ニ比較シテ不相當ナルニ至リタルトキハ契約ノ條件ニ拘ラス

當事者ハ將來ニ向テ地代又ハ借賃ノ増減ヲ請求スルコトヲ得但シ一定ノ期間地代又ハ借賃ヲ增加セサルヘキ特約アルトキハ其ノ定ニ從フ

第十二條 土地所有者又ハ賃貸人ハ辨濟期ニ至リタル最後ノ二年分ノ地代又ハ借賃ニ付借地權者カ其ノ土地ニ於テ所有スル建物ノ上ニ先取特權ヲ有ス

前項ノ先取特權ハ地上權又ハ賃貸借ノ登記ヲ爲スニ因リテ其ノ效力ヲ保存ス

第十三條 前條ノ先取特權ハ他ノ權利ニ對シテ優先ノ效力ヲ有ス但シ國稅徵收法ニ依リ徵收スルコトヲ得ヘキ請求權、共益費用不動産保存不動産工事ノ先取特權及地上權又ハ賃貸借ノ登記前登記シタル質權抵當權ニ後ル

附 則

第十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 本法施行ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 本法施行前設定シタル地上權又ハ賃借權ニシテ建物ノ所有ヲ目的トスルモノノ存續期間ハ既ニ經過シタル期間ヲ算入シ堅固ノ建物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付テハ三十年、其ノ他ノ建物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付テハ二十年トス但シ建物カ此ノ期間滿了前朽廢シタルトキハ借地權ハ之ニ因リテ消滅シ堅固ノ建物ニ付三十年ヲ超エ、其ノ他ノ建物ニ付二十年ヲ超ユル存續期間ノ定アル地上權ハ其ノ期間ノ滿了ニ因リテ消滅ス

建物ノ所有ヲ目的トスル地上權又ハ賃借權ニ付存續期間ノ定ナキ場合ニ於テ本法施行前二十年以上ヲ經過シタルトキハ當事者ハ二十年毎ニ契約ヲ更新シタルモノト看做シ前項ノ規定ヲ準用ス

第一項ノ規定ハ臨時設備其ノ他一時使用ノ爲設定シタルコト明ナル地上權及賃貸借ニ付之ヲ適用セス

第十七條 前條ニ規定スルモノヲ除クノ外本法施行ノ際現ニ存スル地上權又ハ賃借權ニシテ建物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付亦本法ヲ適用ス

借家法案

借家法

第一條 建物ノ賃貸借ハ其ノ登記ナキモ建物ノ引渡アリタルトキハ爾後其ノ建物ニ付物權ヲ取得シタル者ニ對シ其ノ效力ヲ生ス

民法第五百六十六條第一項及第三項ノ規定ハ登記セサル賃貸借ノ目的タル建物カ賣買ノ目的

物ナル場合ニ之ヲ準用ス

民法第五百三十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二條 賃貸借ノ期間滿了ノ後賃借人カ建物ノ使用又ハ收益ヲ繼續スル場合ニ於テ賃貸人カ遲滞ナク異議ヲ述ヘサリシトキハ前賃貸借ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ賃貸借ヲ爲シタルモノト看做ス

第三條 賃貸人ノ解約申入ハ一年前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

前一年未滿ノ期間ノ定アル賃貸借ハ之ヲ期間ノ定ナキモノト看做ス

前條ノ規定ハ賃貸借カ解約申入ニ因リテ終了シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四條 解約申入ニ因リテ終了スヘキ賃貸借アル場合ニ於テ賃貸借カ終了スヘキトキハ賃貸人ハ轉借人ニ對シ其ノ旨ノ通知ヲ爲スニ非サレハ其ノ終了ヲ以テ轉借人ニ對抗スルコトヲ得ス
賃貸人カ前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ轉貸借ハ其ノ通知ノ後一年ヲ經過スルニ因リテ終了ス
第五條 賃貸人ノ同意ヲ得テ建物ニ附加シタル疊、建具其ノ他ノ造作アルトキハ賃借人ハ賃貸借終了ノ場合ニ於テ其ノ際ニ於ケル賃貸人ニ對シ時價ヲ以テ其ノ造作ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得賃貸人ヨリ買受ケタル造作ニ付亦同シ

第六條 前五條ノ規定ニ反スル特約ニシテ賃借人ニ不利ナルモノハ之ヲ爲ササルモノト看做ス
第七條 建物ノ借賃カ土地若ハ建物ニ對スル租稅其ノ他ノ負擔ノ増減ニ因リ、土地若ハ建物ノ價格ノ昂低ニ因リ又ハ比隣ノ建物ノ借賃ニ比較シテ不相當ナルニ至リタルトキハ契約ノ條件ニ拘ラス當事者ハ將來ニ向テ借賃ノ増減ヲ請求スルコトヲ得但シ一定ノ期間借賃ヲ増加セサルヘキ特約アルトキハ其ノ定ニ從フ

第八條 本法ハ一時使用ノ爲建物ノ賃貸借ヲ爲シタルコト明ナル場合ニハ之ヲ適用セス

附 則

第九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 本法施行ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 本法ハ本法施行前ニ爲シタル建物ノ賃貸借ニ付亦之ヲ適用ス但シ本法施行前ニ賃貸人ノ解約ノ申入アリタル場合ニ於テハ賃貸借ハ既ニ經過シタル期間ヲ算入シ一年ヲ經過スルニ因リテ終了ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下做之

○委員長伯爵寺島誠一郎 散會ヲ命ス

散會 午後一時四十五分

第二回 大正十年三月十八日

出席委員

委員長	伯爵	寺島誠一郎	副委員長	松室致
委員	子爵	勘解由小路資承	子爵	毛利高範
同	子爵	永井尙敏	同	河村讓三郎
同	同	內田嘉吉	同	男爵 船越光之丞
同	男爵	二條正麿	同	江木翼
同	同	伊藤傳七	同	中村圓一郎

出席委員外議員

鈴木摠兵衛

出席政府委員

內務次官	小橋一太
內務書記官	田子一民

司法次官	鈴木喜三郎
司法省民事局長	山内確三郎

開會 午前十時三十七分

○委員長伯爵寺島誠一郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵寺島誠一郎 休憩ヲ命ス

休憩 午後零時二十一分

開會 午後一時四十四分

○委員長伯爵寺島誠一郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵寺島誠一郎 散會ヲ命ス

散會 午後三時八分

第三回 大正十年三月二十日

出席委員

委員長	伯爵	寺島誠一郎	副委員長	松室致
委員	子爵	永井尙敏	同	子爵 池田政時

同 河村讓三郎 同 內田嘉吉

同 男爵 船越光之丞 同 男爵 二條正麿

同 江木翼 同 伊藤傳七

出席委員外議員

出席國務大臣 鈴木摠兵衛

司法大臣伯爵 大木遠吉

出席政府委員 內務次官 小橋一太

內務省土木局長 堀田貢

內務書記官 田子一民

司法次官 鈴木喜三郎

司法省民事局長 山內確三郎

司法省參事官 池田寅二郎

鐵道省建設局長 大村銅太郎

開會 午後一時三十一分

○委員長伯爵寺島誠一郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵寺島誠一郎 散會ヲ命ス

散會 午後三時三十分

第四回 大正十年三月二十三日

出席委員

委員長 伯爵 寺島誠一郎 副委員長 松室致

委員 子爵 永井尙敏 同 子爵 池田政時

同 河村讓三郎 同 內田嘉吉

同 男爵 中島久萬吉 同 江木翼

同 伊藤傳七 同 中村圓一郎

出席政府委員

司法省民事局長 山內確三郎

開會 午前九時二十二分

○委員長伯爵寺島誠一郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵寺島誠一郎 散會ヲ命ス

散會 午前十時十五分

第五回 大正十年三月二十四日

出席委員

委員長	伯爵	寺島誠一郎	副委員長	松室致
委員	子爵	毛利高範	同	子爵
同	子爵	池田政時	同	男爵
同	同	內田嘉吉	同	男爵
同	同	江木翼	同	男爵
同	同	中村圓一郎	同	男爵
出席國務大臣				

司法省參事官

池田寅二郎

出席政府委員

開會 午前十時四十二分

○委員長伯爵寺島誠一郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵寺島誠一郎 散會ヲ命ス

散會 午後零時八分

第六回 大正十年三月二十五日

出席委員

委員長	伯爵	寺島誠一郎	副委員長	松室致
委員	子爵	毛利高範	同	子爵
同	子爵	池田政時	同	男爵
同	同	內田嘉吉	同	男爵
同	同		同	男爵
出席國務大臣				

司法大臣 伯爵 大木遠吉

司法省民事局長 山內確三郎

司法省參事官

池田寅二郎

出席國務大臣
同 男爵 中島久萬吉 同 男爵 二條正麿
同 江田木翼 同 中村圓二郎

出席政府委員
內閣總理大臣 原 敬
司法大臣 伯爵 大木遠吉
司法次官 鈴木喜三郎
司法省民事局長 山内確三郎

○委員長伯爵寺島誠一郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵寺島誠一郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵寺島誠一郎 休憩ヲ命ス

休憩 午前十一時五十三分

開會 午前二時三十二分

○委員長伯爵寺島誠一郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵寺島誠一郎 休憩ヲ命ス

休憩 午後二時五十分

開會 午後三時

○委員長伯爵寺島誠一郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵寺島誠一郎 散會ヲ命ス

散會 午後三時十六分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

借地法案

右別冊ノ通修正セリ依テ及報告候也

大正十年三月二十五日

右特別委員長

伯爵 寺島誠一郎

貴族院議長公爵德川家達殿

(附記) 別冊略之貴族院議事速記録第二十六號四百七十六頁四百七十七頁參照

借家法案

右別冊ノ通修正セリ依テ及報告候也

大正十年三月二十五日

右特別委員長

伯爵 寺島誠一郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

(附記) 別冊略之貴族院議事速記録第二十六號四百七十六頁參照

委員長 伯爵 寺島誠一郎 印

副委員長 松室 致 印

朝鮮事業公債法中改正法律案特別委員會

臺灣事業公債法中改正法律案特別委員會

樺太事業公債法中改正法律案特別委員會

大正九年法律第五十三號中改正法律案特別委員會

(附記) 右各特別委員會會議録ハ便宜之ヲ一括ス

委員選舉

○大正十年二月二十五日議長ノ指名ヲ以テ朝鮮事業公債法中改正法律案、臺灣事業公債法中改正法律案、樺太事業公債法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

- | | |
|----|------|
| 伯爵 | 奧平昌恭 |
| 子爵 | 渡邊千冬 |
| 男爵 | 佐竹義準 |
| 男爵 | 藤堂高成 |
| 男爵 | 矢吹省三 |
| 男爵 | 仁尾惟茂 |

(附記)

大正九年法律第五十三號中改正法律案ハ大正十年三月六日連繫事件トシテ其ノ審査ヲ朝鮮事業公債法中改正法律案外二件特別委員ニ付託セラル

委員長及副委員長選舉

○大正十年三月一日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 伯爵 奧平昌恭
副委員長 仁尾惟茂

會議

第一回 大正十年三月九日

出席委員

委員長 伯爵 奧平昌恭
副委員長 仁尾惟茂
委員 男爵 佐竹義準
同 男爵 藤堂高成

出席政府委員 同 男爵 矢吹省三 同 福永吉之助

朝鮮總督府財務局長

河內山樂三

臺灣總督 男爵

田健治郎

臺灣總督府參事官

鼓包美

樺太廳長官

永井金次郎

大藏省理財局長

小野義一

開會 午後一時二十五分

○委員長伯爵奧平昌恭 開會ヲ宣告ス

(參照)

朝鮮事業公債法中改正法律案

朝鮮事業公債法中左ノ通改正ス

「前項」ヲ「前二項」ニ、「二億六百五十萬圓」ヲ「二億三千六十萬圓」ニ改メ第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

朝鮮ニ於ケル煙草專賣制度ノ實施ニ要スル交付金トシテ交付スル爲政府ハ公債ヲ發行スルコトヲ得

臺灣事業公債法中改正法律案

臺灣事業公債法中左ノ通改正ス

第一條中「一億六百二十萬圓」ヲ「一億千五百六十萬圓」ニ改ム

樺太事業公債法中改正法律案

樺太事業公債法中左ノ通改正ス

第一條中「千二百五十萬圓」ヲ「千九百六十萬圓」ニ改ム

大正九年法律第五十三號中改正法律案

大正九年法律第五十三號中左ノ通改正ス

別表輸入稅表中煙草ノ部ヲ削ル

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵奧平昌恭 散會ヲ命ス

散會 午後三時十五分

第二回 大正十年三月十三日

出席委員

委員長 伯爵 奧平昌恭 副委員長 仁尾惟茂

委員 子爵 渡邊千冬 同 男爵 佐竹義準

同 男爵 矢吹省三 同 男爵 福永吉之助

出席政府委員

朝鮮總督府政務總監 齋藤實

朝鮮總督府財務局長 水野鍊太郎

樺太廳長官 河內山樂三

大藏省理財局長 永井金次郎

開會 午後一時十六分 小野義一

○委員長伯爵奧平昌恭 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵奧平昌恭 散會ヲ命ス

散會 午後一時三十四分

第三回 大正十年三月十四日

出席委員

委員長	伯爵	奧平昌恭	副委員長	仁尾惟茂
委員	子爵	渡邊千冬	男爵	佐竹義準
同	男爵	藤堂高成	同	男爵
同	同	福永吉之助	同	男爵
同	同	山田純精	同	男爵

出席政府委員

朝鮮總督府政務總監	水野鍊太郎
朝鮮總督府財務局長	河內山樂三
樺太廳長官	永井金次郎

○委員長伯爵奧平昌恭 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵奧平昌恭 散會ヲ命ス

散會 午後一時三十分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

朝鮮事業公債法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十年三月十四日

大正十年三月十四日

右特別委員長

伯爵 奧平昌恭

貴族院議長公爵德川家達殿

臺灣事業公債法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十年三月十四日

大藏省理財局長

小野義一

右特別委員長

伯爵 奧平昌恭

貴族院議長公爵德川家達殿

樺太事業公債法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十年三月十四日

右特別委員長

伯爵 奧平昌恭

貴族院議長公爵德川家達殿

大正九年法律第五十三號中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十年三月十四日

右特別委員長

伯爵 奧平昌恭

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長 伯爵 奧平昌恭印

副委員長 仁尾惟茂印

大學特別會計法案特別委員會

大正八年法律第十二號中改正法律案特別委員會

(附記) 右各特別委員會會議錄ハ便宜之ヲ一括ス

委員選舉

○大正十年二月二十五日議長ノ指名ヲ以テ大學特別會計法案、大正八年法律第十二號中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

- | | |
|----|-------|
| 侯爵 | 蜂須賀正韶 |
| 男爵 | 木越安綱 |
| 子爵 | 牧野忠篤 |
| | 北條時敬 |
| | 福原鏝二郎 |
| 男爵 | 横山隆俊 |
| | 石井省一郎 |
| | 阪本鈺之助 |

委員長及副委員長選舉

○大正十年三月二日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	侯爵	蜂須賀正韶	藤本閑一
副委員長		福原鏝二郎	

會議

第一回 大正十年三月二日

出席委員

委員長	侯爵	蜂須賀正韶	副委員長	福原鏝二郎
委員	男爵	木越安綱	同	子爵 牧野忠篤
同		北條時敬	同	男爵 横山隆俊
同		阪本鈺之助		

出席政府委員

文部次官	南弘
------	----

文部省普通學務局長

松浦鎮次郎

文部省參事官

武部欽一

開會 午前十時二十四分

○委員長侯爵蜂須賀正韶 開會ヲ宣告ス

(參照)

大學特別會計法案

大學特別會計法

第一條 帝國大學ハ各別ニ、其ノ他ノ官立大學ハ之ヲ通シテ一ノ特別會計ヲ立テ資金ヲ所有シ政府ノ支出金、資金ヨリ生スル收入、授業料、寄附金其ノ他ノ收入ヲ以テ其ノ一切ノ歳出ニ充テシム

第二條 前條ノ政府支出金ハ東京帝國大學ニ在リテハ毎年度二百九十五萬三千三百五圓、京都帝國大學ニ在リテハ毎年度百七十一萬五千四百二十八圓トシ其ノ他ノ帝國大學及官立大學ニ在リテハ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ一般會計ヨリ之ヲ繰入ルヘシ
東京帝國大學ニ在リテハ前項ノ金額ノ外航空ニ關スル研究ノ費用ニ充ツル爲必要ナル金額ヲ

每年度豫算ノ定ムル所ニ依リ一般會計ヨリ繰入ルルコトヲ得

第三條 各帝國大學及官立大學ノ資金ハ政府ヨリ交付シ又ハ他ヨリ寄附シタル動産及不動産並
歳入殘餘ヨリ成ル但シ官立大學ニ在リテハ第七條ノ施行豫算ノ歳入殘餘ニシテ資金ニ編入シ
タルモノハ官立大學毎ニ區分シ之ヲ整理スヘシ

第四條 大學ノ歳出ニ充ツル爲必要アルトキハ其資金ヲ支消スルコトヲ得但シ用途指定ニ係ル
資金ニ付テハ用途指定者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第五條 政府ハ毎年各帝國大學及官立大學ノ特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫
算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第六條 大學特別會計ノ豫算中ニハ豫備費ヲ設クヘシ但シ東北帝國大學、九州帝國大學、北海
道帝國大學及官立大學ノ特別會計豫算ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第七條 文部大臣ハ歳入歳出豫算決定ノ後豫備費ヲ除クノ外各大學毎ニ歳入歳出ノ施行豫算ヲ
調製シ當該大學ノ總長又ハ學長ヲシテ之ヲ施行セシムヘシ

文部大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項以外ノ者ヲシテ歳入歳出豫算ノ一部ヲ施行セシムルコ
トヲ得

第八條 大學ニ於テ外國ヨリ直接ニ圖書、機械、標本又ハ實驗用材料ノ買入ヲ爲ス場合ニハ前
金拂ヲ爲スコトヲ得

第九條 寄附金ニシテ特ニ用途ヲ指定シタルモノハ其ノ條件ニ從ヒ之ヲ使用スヘシ

第十條 獎學ヲ目的トスル寄附金ハ之ヲ當該大學ニ交付シ總長又ハ學長ニ經理ヲ委任スルコト
ヲ得

第十一條 委任經理ニ係ル會計ノ検査ハ會計検査院法第十六條ノ規定ニ依ル

第十二條 官立大學ニ屬スル收入ヲ以テ其ノ歳出ヲ支辨シ別ニ政府支出金ヲ要セサルニ至リタ
ルトキハ當該大學ノ爲ニ特別會計ヲ設クルモノトス

第十三條 大學特別會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 官立大學ノ創設費ハ第一條ノ規定ニ拘ラス一般會計ノ所屬トス

第十五條 官立大學特別會計ノ設置及官立大學ノ創設ニ付一般會計及學校及圖書館特別會計ニ
關涉シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ大正十年度ヨリ之ヲ施行ス

帝國大學特別會計法及大正七年法律第四號ハ之ヲ廢止ス但シ大正九年度分ニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

他ノ法律ニ於テ帝國大學特別會計法トアルハ大學特別會計法トス
仙臺高等工業學校ノ設置ニ付東北帝國大學特別會計及學校及圖書館特別會計ニ關涉シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(參照)

大正七年法律第四號

東京帝國大學及京都帝國大學ニ於テ時局ニ基因シテ生スル經費ノ不足ヲ補充スル爲必要ナル金額ハ帝國大學特別會計法第二條ノ規定ニ依ル金額ノ外一般會計ヨリ當該帝國大學特別會計へ臨時之ヲ繰入ルルコトヲ得

附則

本法ハ大正七年度ヨリ之ヲ施行ス

大正八年法律第十二號中改正法律案

大正八年法律第十二號中左ノ通改正ス

「工學部ノ擴張ヲ爲ス」ヲ「工學部ノ擴張並傳染病研究所ニ於ケル研究事項増加」ニ、「百八十萬圓」ヲ「二百四十七萬圓」ヲ大正八年度乃至大正十三年度ニ互リ「八十三萬二千七百七十一圓」ヲ「百六萬五千六百五十二圓」ニ、「帝國大學特別會計法第二條」ヲ「大學特別會計法第二條」ニ、「擴張ニ伴ヒ」ヲ「東京帝國大學及京都帝國大學ノ擴張ニ伴ヒ」ニ改ム

(參照)

大正八年法律第十二號

東京帝國大學醫學部及工學部ノ擴張ヲ爲スノ費用ニ充ツル爲總額金百八十萬圓ヲ、京都帝國大學工學部及理學部ノ擴張ヲ爲スノ費用ニ充ツル爲總額金八十三萬二千七百七十一圓ヲ大正八年度乃至大正十一年度ニ互リ帝國大學特別會計法第二條ノ金額ノ外毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ一般會計ヨリ當該帝國大學特別會計ニ繰入ルヘシ
前項ノ規定ニ依ル臨時政府支出金ノ外擴張ニ伴ヒ要スル經常費ニ充ツル爲當分ノ内毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ必要ナル金額ヲ一般會計ヨリ當該帝國大學特別會計ニ繰入ルヘシ
(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長侯爵蜂須賀正詔 散會ヲ命ス

散會 午前十一時五十五分

第二回 大正十年三月十六日

出席委員

委員長 侯爵 蜂須賀正韶 副委員長 福原鏝二郎

委員 男爵 木越安八綱 同 子爵 牧野忠篤

同 北條時敬 同 男爵 横山隆俊

同 阪本鈺之助 同 藤本閑作

出席政府委員

文部省專門學務局長 松浦鎮次郎

文部省參事官 武部欽一

開會 午後一時十五分

○委員長侯爵蜂須賀正韶 開會ヲ宣告ス

○委員長侯爵蜂須賀正韶 散會ヲ命ス

散會 午後二時十一分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

大學特別會計法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十年三月十六日

右特別委員長

侯爵 蜂須賀正韶

貴族院議長公爵德川家達殿

大正八年法律第十二號中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十年三月十六日

右特別委員長

侯爵 蜂須賀正韶

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長 侯爵 蜂須賀正韶 印

副委員長 福原 錄二郎 印

大正十年二月二十五日議長ノ指名ヲ以テ朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○大正十年二月二十五日議長ノ指名ヲ以テ朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

- | | |
|----|-----------|
| 公爵 | 二條 厚基 |
| 子爵 | 實 吉 安純 |
| 子爵 | 松 平 直平 |
| 子爵 | 米 倉 昌 達 |
| 男爵 | 北 里 柴三郎 |
| 男爵 | 北 大 路 實 信 |
| 男爵 | 高 崎 弓 彦 |
| 委員 | 岡 田 文 次 |
| 委員 | 佐 藤 傳 兵 衛 |

委員長及副委員長選舉

○大正十年三月一日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	子爵	實吉安純
副委員長	男爵	北大路實信

會議

第一回 大正十年三月一日

出席委員

委員長	子爵	實吉安純	副委員長	男爵	北大路實信
委員	子爵	米倉昌達	同		北里柴三郎
同	男爵	高崎弓彦			

朝鮮總督府政務總監	水野鍊太郎
朝鮮總督府內務局長	大塚常三郎

開會 午後二時二十四分

○委員長子爵實吉安純 開會ヲ宣告ス

(參照)

朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案

朝鮮醫院及濟生院特別會計法中左ノ通改正ス

第二條中「九十二萬圓」ヲ「百十四萬圓」ニ改ム

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長子爵實吉安純 散會ヲ命ス

散會 午後三時一分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十年三月一日

右特別委員長

子爵	實吉安純
實吉安純	

貴族院議長公爵德川家達殿

貴州調查員公會調查員

- 委員長 子爵 實 吉 安 純 印
- 副委員長 男爵 北 大 路 實 信 印

法律顧問委員

大正十年三月一日

本會於三月一日、委員及職員選舉

臨時調查員及臨時會計會指中並五並審案

(附註) 同日委員選舉出、委員及職員選舉、法律顧問委員

總會 千對三初一役

○委員及子爵實吉安、總會任命

(附註) 本委員會辦事、應出給之額、及以之益、及之額

第一新中「共十二萬圓」及「百十四萬圓」ニ並ム

臨時調查員及臨時會計會指中並五並審案

臨時調查員及臨時會計會指中並五並審案

(參照)

國有財產法案特別委員會

委員選舉

○大正十年三月一日議長ノ指名ヲ以テ國有財產法案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

主席 林書瑄	副主席 小 櫻	大藏省顧問員	內務省顧問員	出納委員	同	委員	委員	委員	出納委員	會 議
伯爵 副 島 精 道 正	子爵 稻 垣 重 太 祥	子爵 仲 小 路 廉	男爵 西 村 精 一	男爵 上 山 滿 之 進	男爵 山 內 豐 政	男爵 千 秋 季 隆	男爵 高 橋 琢 也	男爵 石 谷 傳 四 郎		

○大正十年三月八日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

國有財產法案特別委員會

○大正十年三月十日

會議

第一回 大正十年三月十日

出席委員

委員長 伯爵 副島 道正

副委員長

高橋 琢也

委員 男爵 山内 豊政

同 男爵

千秋 季隆

同 石谷 傳四郎

出席政府委員

内務省參事官

山田 進次郎

大藏次官

神野 勝之助

大藏省主計局長

西 野 元

大藏省理財局長

小野 義一

主計局書記官

河本 文一

○委員長伯爵副島道正 開會ヲ宣告ス

開會 午後一時二十四分

(參照)

國有財産法案

(小字ハ衆議院ノ修正、——ハ同削除ノ符號ナリ)

第一條 本法ニ於テ國有財産ト稱スルハ國有ノ不動産並勅令ヲ以テ定ムル國有ノ動産及權利ヲ

謂フ

第二條 國有財産ヲ分チテ左ノ四種トス

一 公共用財産 國ニ於テ直接公共ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

二 公用財産 國ニ於テ神社ノ用又ハ國ノ事務、事業若ハ官吏其ノ他ノ職員ノ住居ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

三 營林財産 國ニ於テ森林經營ノ目的ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

四 雜種財産 前各號ニ屬セサルモノ

第三條 國有財産ニ關スル事務ハ各省大臣之ヲ管理シ國有財産ニ關スル總轄事務ハ大藏大臣之

ヲ管理スヘシ

第四條 國有財産ハ雜種財産ヲ除クノ外之ヲ讓渡シ又ハ之ニ私權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ用途又ハ目的ヲ妨ケサル限度ニ於テ其ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルハ此ノ限ニ在ラス

第五條 雜種財産ハ左ニ掲ケル場合ニ限り之ヲ讓與スルコトヲ得

- 一 帝室用又ハ公共團體ニ於テ公用若ハ公用ニ供スル爲必要アルトキ
- 二 公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ其ノ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル者、其ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル者其ノ他ノ緣故者又ハ關係者ニ讓與スルトキ

三 神社、寺院又ハ佛堂ノ合併シタル場合ニ於テ之ニ因リ其ノ供用ヲ止メタル國有財産ヲ其ノ合併シタル神社、寺院又ハ佛堂ニ讓與スルトキ

第六條 雜種財産ハ法律ヲ以テ特別ノ定ヲ爲シタル場合ニ限り之ヲ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第七條 雜種財産ハ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ニ限り帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ他ノ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ト交換ヲ爲スコトヲ得

前項ノ交換ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ價格均シカラサルトキハ金錢ヲ以テ補足スヘシ

第八條 用途及期間ヲ指定シテ國有財産ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間内ニ之ヲ其ノ用途ニ供セス又ハ之ヲ其ノ用途ニ供シタル後指定期間内ニ其ノ用途ヲ廢止シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第九條 國有財産ノ賣拂代金又ハ交換差金ハ財産引渡前之ヲ納付セシムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ延納ノ特約ヲ爲スコトヲ得

第十條 國有財産ニ付境界査定ヲ施行セムトスルトキハ豫メ期日ヲ定メテ隣接地所有者ニ之ヲ通知シ其ノ立會ヲ求ムヘシ

隣接地所有者期日ニ於テ立會ハサルコトアルモ境界査定ヲ施行スルコトヲ得

第十一條 境界査定ヲ了シタルトキハ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

第十二條 前二條ノ規定ニ依リ通知ヲ受クヘキ者ノ住所居所共ニ不明ナルトキハ通知ノ要旨ヲ公告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ公告シタル場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ起算シ三十日ヲ經過シタルトキハ通知ヲ受ケタルモノト看做ス

第十三條 隣接地所有者^{○其ノ他}者^者境界査定ニ對シ不服アルトキハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六十日內

ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十四條 國有財産ニ付境界査定又ハ測量ヲ爲ス爲政府ニ於テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ障害物ヲ除却スルノ必要アルトキハ當該土地又ハ物件ノ所有者及占有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十五條 國有財産ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

- 一 植樹ヲ目的トシテ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ八十年
- 二 前號ノ場合ヲ除クノ外土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ三十年
- 三 建物其ノ他ノ物件ヲ貸付スル場合ニ在リテハ十年

貸付期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ更新ノ時ヨリ前項ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條 國有財産ハ帝室用又ハ公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要アル場合及勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外無償ニテ之ヲ貸付スルコトヲ得ス

第十七條 國有財産ノ貸付料ハ毎年定期ニ之ヲ納付セシムヘシ但シ數年分ヲ前納セシムルコト

ヲ妨ケス

第十八條 國有財産ヲ貸付シタル場合ニ於テ其ノ貸付期間中帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要ヲ生シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ借受人ハ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十九條 貸付期間ノ終了又ハ貸付契約ノ解除ニ當リ政府ニ於テ時價ヲ提供シ其ノ國有財産ノ上ニ存スル建物其ノ他ノ物件ヲ買取ルヘキ旨通知シタルトキハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十條 前五條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル契約ニ付之ヲ準用ス

第二十一條 雜種財産ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ヲ爲サトスル者アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業者ニ對シ事業ノ成功ヲ條件トシテ其ノ財産ノ賣拂、讓與又ハ貸付ノ豫約ヲ爲シ其ノ事業ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ事業ノ成功ニ要スル豫定期間事業者ヲシテ其ノ成功シタル部分ニ付無償ニテ使用又ハ收益ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十二條 前條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間内ニ事業者其ノ事業ニ著手セサルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第二十三條 第二十一條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ豫定期間内ニ事業成功セサルトキト雖土地又ハ水面ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ事業者ニ對シ其ノ成功シタル部分ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 從前ヨリ引續キ寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スル雜種財産ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ用ニ供スル間無償ニテ之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付シタルモノト看做ス

寺院又ハ佛堂ノ土地ニ係ル雜種財産ハ其ノ用ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ第十五條ノ規定ニ拘ラス之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付スルコトヲ得

第二十五條 政府ハ國有財産ノ種類ニ從ヒ其ノ臺帳ヲ備フヘシ

第二十六條 政府ハ毎會計年度間ニ於ケル國有財産増減總計算書及毎五年三月三十一日現在

ノ國有財産現在額總計算書ヲ調製シ會計検査院ハ検査ヲ經テ之ヲ帝國議會ニ報告スヘシ
前項ノ國有財産増減總計算書ニハ各省ノ國有財産増減報告書ヲ、國有財産現在額總計算書ニハ各省ノ國有財産現在額報告書ヲ添付スヘシ

附 則 山 内 豊 島 同 谷 粉 四 頭 山 崎 玄 兼

第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 第二十五條及第二十六條ノ規定ハ當分ノ内公共用財産ニ付之ヲ適用セズ

第二十九條 第二十六條ノ規定ニ依ル國有財産増減總計算書ハ本法施行ノ日ノ屬スル年度分ヨ

第三十條 國有財産現在額總計算書ノ第一回分ハ本法施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三十一條 北海道國有未開地處分法中ノ規定ハ本法ノ規定ニ牴觸スルモノト雖當分ノ内仍其

○委員ノ效力ヲ有ス

第三十二條 國有林野法第二條、第四條乃至第七條、第九條、第十二條乃至第十四條、第十六

條、第二十四條及第二十五條ノ規定ハ其ノ效力ヲ失フ但シ本法施行前ニ係ル國有林野ノ増減

異動報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第三十三條 從前ノ法令ニ依リテ爲シタル處分、契約其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定

アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス
第三十三條 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵副島道正 散會ヲ命ス

散會 午後一時四十五分

第二回 大正十年三月十五日

出席委員

- 副委員長 高橋 琢也 委員 子爵 稻垣 太 祥
 - 同 男爵 西村 精一 同 上山 滿之 進
 - 同 男爵 山内 豐政 同 石谷 傳四 郎
- 出席政府委員
- 内務省參事官 山田 準次 郎
 - 大藏省主計局長 西 野 元

- 大藏書記官 太田 嘉太 郎
- 主計局書記官 河 本 文 一
- 農商務省山林局長 中 井 勵 作

○副委員長高橋琢也 開會ヲ宣告ス

○副委員長高橋琢也 散會ヲ命ス

散會 午後三時五十一分

第三回 大正十年三月二十二日

出席委員

- 副委員長 高橋 琢也 委員 子爵 稻垣 太 祥
 - 同 男爵 西村 精一 同 山内 豐政
 - 同 男爵 千秋 季 隆 同 石谷 傳四 郎
- 出席政府委員
- 内務省參事官 山田 準次 郎

大藏省主計局長

西野元

主計局書記官

河本文一

文部省參事官

武部欽一

農商務省山林局長

中井勵作

開會 午前十時三十四分

○副委員長高橋琢也 開會ヲ宣告ス

○副委員長高橋琢也 散會ヲ命ス

散會 午後零時九分

○(附記) 同日議長ニ提出セル副委員長ノ報告左ノ如シ

○國有財産法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十年三月二十二日

右特別委員副委員長

高橋琢也

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 伯爵

副島道正印

副委員長

高橋琢也印

國有土地森林原野下戻ニ關スル法律案特別委員會

委員選舉

○大正十年三月一日連繫事件トシテ本案ノ審査ヲ國有財産法案特別委員ニ付託セラル其ノ氏名左ノ如シ

- | | | | |
|------|----|-----|-----|
| 委員長 | 伯爵 | 副島 | 道正 |
| 副委員長 | 高橋 | 琢也 | |
| | 子爵 | 稻垣 | 太祥 |
| | 男爵 | 仲小路 | 廉 |
| | 男爵 | 西村 | 精一 |
| | 男爵 | 上山 | 滿之進 |
| | 男爵 | 山之内 | 豐政 |
| | 男爵 | 千秋 | 季隆 |
| | | 石谷 | 傳四郎 |

第一回 大正十年三月二十四日

出席委員

副委員長	高橋 琢也	委員	子爵 稻垣 太祥
同	男爵 西村 精一	同	上山 滿之進
同	男爵 山之内 豐政	同	男爵 千秋 季隆

出席政府委員

內務省參事官

山田 準次郎

大藏省主計局書記官

川本 文一

農商務省山林局長

中井 勵作

出席説明員

山林事務官補

武田 久雄

開會 午前十一時七分

○副委員長高橋琢也 開會ヲ宣告ス

(參照)

國有土地森林原野下戻ニ關スル法律案

第一條 明治三十二年法律第九十九號國有土地森林原野下戻法第一條ノ期限内ニ下戻ノ申請ヲ爲ササル者ハ大正十一年三月三十一日迄ニ主務大臣ニ下戻ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ申請ニ對シ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三條 明治三十二年法律第九十九號國有土地森林原野下戻法ニ依リ申請シタル者又ハ此ノ法律施行以前ニ下戻ニ關スル申請書又ハ願書ヲ差出シ此ノ法律ニ依リタルモノト看做サレタルモノニシテ主務大臣ノ處分ニ對シ期限内ニ出訴セサル者ハ大正十一年三月三十一日迄ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

○委員子爵稻垣太祥 本案ハ屢衆議院ヲ通過シテ本院ニ送付セラレタルモノナルカ故ニ其ノ説明モ再三之ヲ聽取セリ衆議院ニ於テハ多數ノ賛成者ヲ得テ議決セラレタリトノコトナルモ本員ハ遺憾ナカラ之ニ賛成スルコトヲ得ス

○委員高橋琢也 社寺土地處分ノ際私有地ノ國有ト爲リタルモノニ對シ下戻申請漏ト爲リ居ルモノアリヤ

○政府委員山田準次郎 其ノ分ハ明治三十二年法律第九十九號施行後大體處分ヲ了シタリ但其ノ處分ノ完了セサルモノ尙多少残り居レリ

○委員高橋琢也 本案ニ對スル政府ノ意見如何

○政府委員山田準次郎 政府カ國有ノ土地森林ノ處分ニ對シ從來採リ來リシ方策ハ今日ニ於テモ決シテ誤リ居ラスト信シ居レリ故ニ本案ニ對シテハ內務省ハ農商務省ト同一意見ニシテ其ノ必要ヲ認ムルモノニアラス

○副委員長高橋琢也 他ニ質問ナキニ依リ本案ヲ表決ニ付ス

散會

○副委員長高橋琢也 本案ハ否決セラレタル旨ヲ宣告シテ散會ヲ命ス

(附記) 同日議長ニ提出シタル副委員長ノ報告左ク如シ

國有土地森林原野下戻ニ關スル法律案

右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十年三月二十四日

右特別委員長

高橋琢也

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 伯爵 副島道正印

副委員長 高橋琢也印

作業會計法中改正法律案特別委員會

海軍燃料廠ノ石炭、煉炭又ハ燃料油ノ買入ニ關スル法律案特別委員會

(附記) 右各特別委員會會議錄ハ便宜之ヲ一括ス

委員選舉

○大正十年三月一日議長ノ指名ヲ以テ作業會計法中改正法律案、海軍燃料廠ノ石炭、煉炭又ハ燃料油ノ買入ニ關スル法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

- | | | | |
|----|----|---|----|
| 子爵 | 細川 | 立 | 興 |
| 子爵 | 森 | 清 | |
| 子爵 | 松平 | 乘 | 長 |
| 男爵 | 村上 | 敬 | 次郎 |
| | 和田 | 彦 | 次郎 |
| 男爵 | 坂本 | 俊 | 篤 |
| 男爵 | 寺島 | 敏 | 三 |
| 男爵 | 原山 | 保 | 太郎 |

委員長及副委員長選舉

○大正十年三月四日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

秋山源藏	委員長	和田彦次郎
	副委員長	細川立興

會議

第一回 大正十年三月四日

出席委員

和田彦次郎	副委員長	子爵	細川立興
森	子爵	松平乘長	
村上敬次郎	男爵	坂本俊篤	
寺島敏三	男爵		
出席政府委員			
大藏書記官			
佐々木謙一郎			

大正十年三月四日

海軍主計中將	志佐勝
海軍主計大佐	加藤亮一

開會午後二時八分

○委員長和田彦次郎開會ヲ宣告ス

(參照) 作業會計法中改正法律案

○委員其作業會計法中改正法律案

作業會計法中左ノ通改正ス

第一條中「海軍探炭所」ヲ「海軍燃料廠」ニ改ム

第二條中「四十七萬圓」ヲ「百萬圓」ニ改メ同條第五項ヲ左ノ如ク改ム

海軍燃料廠据置運轉資本ハ二百萬圓トシ大正九年度末現在ノ海軍探炭所据置運轉資本ヲ以テ之ニ充テ其ノ不足額ハ漸次一般會計ヨリ繰入ス

附則

本法ハ大正十年度ヨリ之ヲ施行ス但シ大正九年度分ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

大正九年度海軍探炭所特別會計歲入歲出豫算中翌年度ニ繰越ヲ要スルモノハ海軍燃料廠特別會

計ニ繰越スヘシ

海軍燃料廠ノ石炭、煉炭又ハ燃料油ノ買入ニ關スル法律案

海軍ニ於テ海軍燃料廠ヨリ石炭、煉炭又ハ燃料油ヲ買入ルル場合ニ於テハ前金拂ヲ爲スコトヲ

得ニテ其ノ不足額ハ前金一先ヨリ買入

附則

本法ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正七年法律第二十號ハ之ヲ廢止ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長和田彦次郎 散會ヲ命ス

散會 午後二時十一分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

作業會計法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十年三月四日

右特別委員長

和田彦次郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

海軍燃料廠ノ石炭、煉炭又ハ燃料油ノ買入ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十年三月四日

右特別委員長

和田彦次郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長

和田彦次郎 印

副委員長 子爵

細川立興 印

青森縣議員公稱藤川隆彦選

藤川隆彦
委員 藤川隆彦

青森縣議員

藤川隆彦

大正十年三月四日

青森縣議員公稱藤川隆彦選

青森縣議員公稱藤川隆彦選

青森縣議員公稱藤川隆彦選

軍用自動車補助法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○大正十年三月一日議長ノ指名ヲ以テ軍用自動車補助法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ

如シ

高橋源次郎 子爵 五辻文仲

大島謙昌 子爵 京極高義

委員 山中信義

委員 大山綱昌

委員 沖原光孚

委員 斯波忠三郎

委員 石黒五十二

委員 倉知鐵吉

委員 高橋源次郎

委員長及副委員長選舉

軍用自動車補助法中改正法律案特別委員會

○大正十年三月四日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	石黒五十二
副委員長	倉知鐵吉

會議

第一回 大正十年三月四日

出席委員

委員長	石黒五十二	副委員長	倉知鐵吉
委員 子爵	五辻治仲	同 子爵	京極高義
同	大山綱昌	同 男爵	斯波忠三郎
同	高橋源次郎		

出席政府委員

陸軍次官	山梨半造
------	------

出席説明員

陸軍輜重兵中佐	唐原與次
---------	------

開會 午前十時十九分

○委員長石黒五十二 開會ヲ宣告ス

(參照)

軍用自動車補助法中改正法律案

軍用自動車補助法中左ノ通改正ス

第二條第一項ヲ左ノ如ク改ム

補助金ヲ受クルコトヲ得ヘキ製造者又ハ所有者ハ内地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南滿洲鐵道附屬地ニ存在スル自動車製造所又ハ自動車ヲ有スル帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル法人ニ限ル但シ社團法人ハ株式會社ニ在リテハ其ノ資本ノ半額以上及議決權ノ過半數カ帝國臣民ニ屬スルモノ其ノ他ノ社團法人ニ在リテハ其ノ總社員カ帝國臣民ナルモノナルコトヲ要ス

第三條中「一英噸」ヲ「四分ノ三佛噸」ニ改ム

第四條中「二千圓」ヲ「三千圓」ニ改ム

第六條中「三百圓」ヲ「六百圓」ニ改ム

第十條中「之ヲ輸出シ」ヲ「主務大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外之ヲ第二條第一項ニ掲ク
ル地域ノ外ニ輸出シ」ニ改ム

附 則

本法ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下做之

○委員長石黒五十二 散會ヲ命ス

散會 午前十一時十一分

第二回 大正十年三月九日

出席委員

委員長 石黒五十二

委員 子爵 辻 治 仲

同 男爵 山 中 信 儀

同 男爵 沖 原 光 孚

出席政府委員

副委員長

子爵 倉 知 鐵 吉

同 京 極 高 義

同 大 山 綱 昌

陸軍次官

山 梨 半 造

委員

石 黒 五 十 二

陸軍輜重兵中佐

唐 原 與 次

出席説明員

開會 午前十一時十八分

○委員長石黒五十二 開會ヲ宣告ス

○委員長石黒五十二 散會ヲ命ス

散會 午前十一時三十九分

第三回 大正十年三月十六日

出席委員

○委員長 石黒五十二

○委員 子爵 辻 治 仲

同 男爵 山 中 信 儀

同 男爵 沖 原 光 孚

同 高 橋 源 次 郎

副委員長

子爵 倉 知 鐵 吉

同 京 極 高 義

同 大 山 綱 昌

同 斯 波 忠 三 郎

出席政府委員

開會 午後五時十分

○委員長石黑五十二 開會ヲ宣告ス

○委員長石黑五十二 散會ヲ命ス

散會 午後五時十九分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

軍用自動車補助法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

○委員大正十年三月十六日

右特別委員長

貴族院議長公爵徳川家達殿

石黑五十二

委員長

石黑五十二印

副委員長

倉知鐵吉印

水産會法案特別委員會

委員選舉

○大正十年三月一日議長ノ指名ヲ以テ水産會法案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

伯爵	吉井幸藏
子爵	伊集院兼知
子爵	米津政賢
子爵	荒川義太郎
男爵	本田親濟
男爵	赤松範一
西久保弘道	
平井六右衛門	
平尾喜三郎	

委員長及副委員長選舉

○大正十年三月五日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

○大正十年三月五日

會議

委員長 伯爵 吉井 幸藏
副委員長 西久保 弘道

第一回 大正十年三月五日

出席委員

委員長 伯爵 吉井 幸藏	副委員長 伯爵 西久保 弘道
委員 子爵 伊集院 兼知	委員 子爵 米津 政賢
同 荒川 義太郎	同 男爵 本田 親濟
同 男爵 赤松 範一	同 男爵 平尾 喜三郎

出席政府委員

農商務省水産局長

村 上 隆 吉

開會 午後一時三十八分

○委員長伯爵吉井幸藏 開會ヲ宣告ス

水産會法案

(參照)

第十三 水産會法

第一條 水産會ハ水産業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 水産會ハ法人トス

第三條 水産會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 政府ハ其ノ定ムル條件ヲ具備スル水産會ニ豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第五條 水産會ハ水産業ニ關スル事項ニ付行政廳ニ建議スルコトヲ得

第六條 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ水産會ニ對シ水産業ニ關スル報告書ノ提出及水産業ニ關スル事項ノ調査ヲ命スルコトヲ得

第七條 水産會ハ郡市水産會、道府縣水産會及帝國水産會トス

第八條 水産會ノ地區ハ郡市水産會ニ在リテハ特別ノ事由アル場合ヲ除ク外郡市、道府縣水産會ニ在リテハ道府縣、帝國水産會ニ在リテハ内地ノ區域ニ依ル

第九條 水産會ノ名稱ニハ郡若ハ市水産會、道、府若ハ縣水産會又ハ帝國水産會ナル文字ヲ用

井ルヘシ但シ郡市水産會ノ地區カ郡市ノ區域ニ依ラサルトキハ其ノ名稱中ニ郡又ハ市ノ文字ヲ用井サルコトヲ得

本法ニ依リ設立シタル水産會ニ非サレハ其ノ名稱中ニ前項ニ掲クル文字ヲ用井ルコトヲ得ス
第十條 水産會ハ郡市水産會ニ在リテハ命令ヲ以テ規定シタル者ヲ除クノ外其ノ地區内ニ於テ漁業又ハ水産物ノ製造、取引若ハ保管ノ業ヲ營ム者及其ノ地區内ニ於ケル漁業權又ハ入漁權ヲ有スル者、道府縣水産會ニ在リテハ其ノ地區内ノ郡市水産會、帝國水産會ニ在リテハ道府縣水産會ヲ以テ之ヲ組織ス

第十一條 水産會ヲ設立セムトスルトキハ其ノ地區内ノ會員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ會則ヲ議定シ行政官廳ノ認可ヲ申請スヘシ
郡市水産會ノ設立ニ關シ前項ニ規定スル會員タル資格ヲ有スル者ノ員數ノ計算ニ付テハ漁業權又ハ入漁權ノ共有ノ場合ニ於テハ其ノ漁業權者又ハ入漁權者ハ之ヲ一人ト看做シ、一人ニシテ前條ニ掲クル二以上ノ資格ヲ有スル者ハ之ヲ一人トス

第十二條 水産會ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時成立ス

第十三條 水産會成立シタルトキハ其ノ地區内ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ總會之ニ加入シタ

ルモノト看做ス但シ特別ノ事由ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 郡市水産會ニ總會、其ノ他ノ水産會ニ總會ヲ置ク

總會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ會員ノ選任シタル議員及特別議員ヲ以テ之ヲ組織ス

總會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員タル水産會ノ選任シタル議員及特別議員ヲ以テ之ヲ組織ス

織ス

第十五條 水産會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ議員定數ノ五分ノ一ヲ超エサル特別議員ヲ置クコトヲ得

行政官廳ハ水産會ノ特別議員ヲ命スルコトヲ得但シ其ノ員數ハ議員定數ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條 左ニ掲クル事項ハ總會又ハ總會ノ議決ヲ經ヘシ

- 一 收支豫算
- 二 經費ノ分賦收入方法
- 三 事業報告及收支決算ノ承認
- 四 豫算ヲ以テ定メタルモノヲ除クノ外新ニ義務ヲ負ヒ又ハ權利ヲ失フヘキ行爲

- 五 基金ノ造成、管理及處分
- 六 不動産ニ關スル權利ノ得喪及變更
- 七 會則ノ變更
- 八 役員及特別議員ノ選任及解任

第九 訴願、訴訟及和解

前項第一號、第二號、第四號、第七號及第八號ニ掲クル事項ノ決議ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十七條 總代會又ハ總會ハ會長之ヲ招集ス但シ第一回ノ總代會又ハ總會ハ水産會成立シタルトキ遲滞ナク設立申請者之ヲ招集スヘシ

議員又ハ特別議員ハ議員及特別議員ノ總數ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及招集ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シ總代會又ハ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

會長正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル請求アリタル後十四日以内ニ總代會又ハ總會ヲ招集セサルトキハ請求者ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

第十八條 議員及特別議員ハ總代會又ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス

第十九條 總代會及總會ノ議事ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席者ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第二十條 會則ノ變更ハ總代會又ハ總會ニ於テ之ヲ組織スル者半數以上出席シ出席者ノ議決權ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ議決ス

郡市水産會ノ會則ノ變更カ地區ノ増減ニ關スルトキハ前項ノ規定ニ依ル議決ノ外新ニ編入又ハ削除セラルヘキ區域内ノ會員タル資格ヲ有スル者又ハ會員ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

前項ニ規定スル會員タル資格ヲ有スル者又ハ會員ノ員數ノ計算ニ付テハ第十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第二十一條 水産會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一人又ハ二人

副會長 一人又ハ二人

評議員 數人

役員ノ郡市水産會ニ在リテハ總代會ニ於テ其ノ會員中ヨリ、其ノ他ノ水産會ニ在リテハ總會

ニ於テ其ノ議員中ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ會員又ハ議員ニ非サル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

第二十二條 會長ハ水産會ヲ代表シ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス

副會長ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會長ノ職務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

評議員ハ會長ノ諮問ニ應シ並會務ノ執行及財産ノ狀況ヲ監査ス

第二十三條 總代会又ハ總會ノ議決ヲ經ヘキ事項ニシテ臨時急施ヲ要シ總代会又ハ總會ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキハ會長ハ會則ノ定ムル所ニ依リ專決處分スルコトヲ得但シ第十六條第二項ノ事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ會長ハ次ノ總代会又ハ總會ニ於テ其ノ承認ヲ求ムヘシ
第二十四條 水産會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ委員會ヲ置クコトヲ得

左ニ掲クル者ヲ以テ委員トス

一 會長

二 副會長

三 會則ニ定メタル方法ニ依リ選任シタル者

第二十五條 委員會ハ仲裁判斷其ノ他會則ニ定ムル事項ニ關シ審議決定ス

第二十六條 水産會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ニ對シ經費ヲ分賦シ及過怠金ヲ徵收スルコトヲ得

郡市水産會ノ經費又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ其ノ會長ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村税ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ水産會ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スヘシ

前項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次クモノトス

經費ノ分賦又ハ過怠金ノ徵收ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立、訴願及行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 帝國水産會ハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ外國ニ於テ設立シタル水産會ニ準スル法人其ノ他ノ團體ヲ會員ト爲スコトヲ得

第二十八條 行政官廳ハ水産會ニ對シ事實ニ關スル報告ヲ爲サシメ業務ノ執行又ハ財産ノ狀況

ヲ検査シ會則、收支豫算又ハ經費ノ分賦及收入ノ方法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十九條 行政官廳ハ水産會ノ總代會、總會若ハ委員會ノ決議又ハ役員若ハ委員ノ行爲ニシテ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員若ハ會員ヲ解任シ、議員ノ改選ヲ命シ水産會ノ事業ヲ停止シ又ハ水産會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第二十條 水産會解散又ハ合併若ハ分割ヲ爲サムトスルトキハ會員ノ三分二以上ノ同意ヲ得テ其ノ事由ヲ具シ尙分割ノ場合ニ於テハ分割ノ各水産會ノ會員又ハ會員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得且水産會ノ權利義務ノ限度ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ前項ニ規定スル會員又ハ會員タル資格ヲ有スル者ノ員數ノ計算ニ付テハ第十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十一條 水産會ハ債權者ノ同意ヲ得又ハ異議アル債權者ニ對シ辨濟ヲ爲シ若ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ水産會ノ解散、合併若ハ分割ヲ爲シ又ハ地區ノ増減ニ關スル會則ノ變更ヲ爲スコトヲ得ス

第三十二條 合併後存續スル水産會又ハ合併ニ因リテ設立シタル水産會ハ合併ニ因リテ消滅シタル水産會ノ權利義務ヲ承繼ス
分割ニ因リテ設立シタル水産會ハ第二十條ノ規定ニ依リテ定リタル限度ニ於テ從前ノ水産會ノ權利義務ヲ承繼ス

第三十三條 水産會ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙存續スルモノト看做ス
第三十四條 水産會解散シタルトキハ會長及副會長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ會則ニ別段ノ定アルトキ又ハ總代會若ハ總會ニ於テ選任シタル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ行政官廳清算人ヲ選任ス清算人闕ケタルトキ亦同
第三十五條 清算人ハ水産會ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス
清算ノ方法及財産處分ニ付テハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ
第三十六條 行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ清算ノ方法及財産處分ノ變更ヲ命シ又ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第三十七條 本法ニ於テ郡市町村トアルハ郡制市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準ス

へキモノトス
附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際現ニ存スル水産組合及水産組合聯合會ハ命令人定ムル所ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ本法ニ依ル水産會ト爲スコトヲ得
(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵吉井幸藏 散會ヲ命ス

散會 午後二時十五分

第二回 大正十年三月八日

出席委員

- 委員長 伯爵 吉井 幸藏 副委員長 西久保弘道
- 委員 子爵 伊集院兼知 同 荒川義太郎
- 同 男爵 本田親濟 同 男爵 赤松範一
- 同 平尾喜三郎

出席政府委員

大正十年三月十四日

- 農商務次官 村中隆三
- 農商務省水産局長 村上隆吉

開會 午後一時三十九分

○委員長伯爵吉井幸藏 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵吉井幸藏 散會ヲ命ス

散會 午後三時五十八分

第三回 大正十年三月十四日

出席委員

- 委員長 伯爵 吉井 幸藏 副委員長 西久保弘道
- 委員 子爵 伊集院兼知 同 子爵 米津政賢
- 同 荒川義太郎 同 男爵 本田親濟
- 同 男爵 赤松範一
- 出席國務大臣 山本

出席政府委員

農商務大臣 男爵 山本 達 雄

農商務次官 田 中 隆 三

農商務省水産局長 村 上 隆 吉

開會 午後一時三十九分

○委員長伯爵吉井幸藏 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵吉井幸藏 散會ヲ命ス

散會 午後二時三十一分

○(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

○委員 水産會法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十年三月十四日

右特別委員長

伯爵 吉 井 幸 藏

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 伯爵 吉 井 幸 藏 印

副委員長 西 久 保 弘 道 印

大正九年法律第十二號中改正法律案特別委員會
 明治四十年法律第二十一號中改正法律案特別委員會
 (附記) 右各特別委員會會議錄ハ便宜之ヲ一括ス

委員選舉

○大正十年三月一日議長ノ指名ヲ以テ大正九年法律第十二號中改正法律案、明治四十年法律第二十
 一號中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

出部委員

第一回 大正十年三月一日

委員

子爵 豐岡圭資
 子爵 白川資長
 子爵 竹屋春光
 淺田德則
 荒井賢太郎
 安場末喜
 男爵 東郷安
 男爵 安樂兼道

大正九年法律第十二號中改正法律案特別委員會
 明治四十年法律第二十一號中改正法律案特別委員會
 (附記) 右各特別委員會會議錄ハ便宜之ヲ一括ス

委員選舉

○大正十年三月一日議長ノ指名ヲ以テ大正九年法律第十二號中改正法律案、明治四十年法律第二十
 一號中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

出部委員

第一回 大正十年三月一日

委員

子爵 豐岡圭資
 子爵 白川資長
 子爵 竹屋春光
 淺田德則
 荒井賢太郎
 安場末喜
 男爵 東郷安
 男爵 安樂兼道

委員長及副委員長選舉

○大正十年三月四日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	荒井賢太郎
副委員長	西川甚五郎

會議

第一回 大正十年三月十二日

出席委員

副委員長	西川甚五郎	委員	子爵 豐岡圭資
委員	子爵 白川資長	同	子爵 竹屋春光
同	淺田德則	同	男爵 安場末喜
同	男爵 東郷安一		

出席政府委員 臺灣總督府財務局長 阿部 滂

臺灣總督府財務局長

阿部 滂

樺太廳長官

永井金次郎

樺太廳事務官

石坂 豊一

大藏書記官

草間 秀雄

開會 午後一時二十八分

○副委員長西川甚五郎 開會ヲ宣告ス

(參照)

大正九年法律第十二號中改正法律案

大正九年法律第十二號中左ノ通改正ス

第三條 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人カ朝鮮、臺灣、關

東州、樺太又ハ所得稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合

ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人カ所得稅法施行地ニ本店又ハ主

タル事務所ヲ有スルトキハ所得稅法第九條第三項及第十二條ノ規定ヲ準用ス

第四條 日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ臺灣ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル所得ニ付テハ

所得稅法第十八條第六號ノ規定ヲ適用セス

第五條 臺灣ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得稅法第三條第二種乙及第三種

ノ所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル所得稅ヲ課セス

第六條 所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得ニシテ臺灣ニ於ケ

ル法令ニ依リ第二種ノ所得トシテ所得稅ヲ課スルモノニ付テハ所得稅法ニ依ル所得稅ヲ課セ

ス

第七條 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於テ所得稅ヲ免除スル各當該地ノ製造業ヨリ生スル所

得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル所得稅ヲ免除ス

附則

本法ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三種ノ所得ニ付テハ大正十年分所得稅ヨリ、第

三條改正ノ規定ハ大正十年四月一日ヲ含ム事業年度ヨリ之ヲ適用ス

明治四十年法律第二十一號中改正法律案

明治四十年法律第二十一號中左ノ通改正ス

第一條第一項ニ左ノ四號ヲ加フ

四 所得稅

五 市街宅地稅

六 酒造稅

七 醬油稅

附則

本法ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○委員西川甚五郎 明治四十年法律第二十二號中改正法律案ニ對シ政府委員ノ説明アラムコトヲ

求ム

○政府委員永井金次郎 明治四十年法律第二十一號中改正ハ樺太ノ租稅ニ關スル法案ニシテ其ノ

歲入増加ヲ計ル爲ニ市街宅地稅ヲ新設セムトスルモノナリ即市街宅地ヲ一級二級ニ分チ一級ハ

四箇所二級モ同様四箇所存在ス之等ニ對シ一級ハ地價ノ千分ノ五ヲ二級ハ千分ノ三ヲ課稅セム

トス次ハ酒造稅ニシテ之ハ從來醬油稅ト共ニ總テ營業稅中ニ包含セラレタリシモ其ノ徵稅上不

便尠カラサルニ依リ獨立シタル間接稅ト爲スノ必要アリ而シテ其ノ取締上處分法ヲ適用スル便

宜ヲ得ムカ爲メ茲ニ本案ヲ提出セル次第ナリ

○委員淺田德則 酒醬油稅ハ何程アリヤ

- 政府委員永井金次郎 酒税ハ二十九萬六千圓醬油税ハ六百七十圓ナリ
- 委員男爵東郷安 醬油ノ造石高ハ何程ナルヤ
- 政府委員永井金次郎 醬油八百四十一石酒約二萬五千石トス
- 委員男爵東郷安 新税目ノ徵收ニ吏員ノ増加ヲ要セサルヤ
- 政府委員石坂豊一 稅務吏五名ノ増加ヲ要求セリ此ノ經費一萬一千二百五十圓ナリ
- 委員男爵東郷安 直接稅ヨリ間接稅ニ變更シテ負擔額ニ差異ヲ生セサルヤ
- 政府委員永井金次郎 負擔額ニ何等差異ヲ生セサルモ唯其ノ取締上間接稅ニ改正セルモノナリ
- 委員淺田德則 酒醬油其ノ他ノ飲料ハ内地ヨリ凡ソ何程移入セリヤ
- 政府委員永井金次郎 酒約五千石ノ移入アリタリ
- 委員男爵安場末喜 酒醬油釀造ノ原料ハ總テ樺太ニ於テ調達スルコトヲ得ルヤ又ハ内地ヨリ之ヲ仰キ居ルヤ
- 政府委員永井金次郎 酒ノ原料ハ内地ヨリ移入シ醬油ハ樺太ノ麥ヲ以テ其ノ原料ノ大部分ト爲セリ
- 委員男爵安場末喜 樺太ニ於テ水田ヲ開拓シツツアリヤ

- 政府委員永井金次郎 水田ハ目下民間ノ事業トシテ開拓セラレサルモ樺太廳管理ノ下ニ農事試驗場ヲ有シ稍之ニ望ヲ囑シツツアルモ當分民間ノ事業トシテ經營スルコト困難ナリト思慮ス
- 委員西川甚五郎 市街宅地ハ何箇所アリヤ
- 政府委員永井金次郎 市街宅地一級四箇所二級四箇所合計八箇所ニシテ此地積三十六萬坪ナリ
- 委員淺田德則 市街宅地等級割高低ノ限度何程ナルヤ
- 政府委員永井金次郎 市街宅地ノ最高價格五十圓最低五十錢位ナルモ之ハ賣價ヲ謂フモノナリ
- 委員子爵白川資長 五十錢ノ宅地トハ如何ナル地域ナリヤ
- 政府委員永井金次郎 二級町村所在ノ邊鄙ニ在リテ敷香、北名好等其ノ類ナリ
- 委員子爵豐岡圭資 二級ノ最高價格ハ凡ソ何程ナリヤ
- 政府委員石坂豊一 最高十五圓位ノ見當ナリ
- 委員淺田德則 樺太ノ如キ殖民地ニ於テハ大ニ移住民ヲ獎勵スル必要アラム然ルニ課稅ハ此等移住ノ氣勢ヲ殺クノ惧ナキヤ又本改正案ハ何時ヨリ施行スルヤ
- 政府委員永井金次郎 本案ハ本年四月ヨリ實施スル者ナリ課稅ニ付テハ現今樺太ニ於テモ其ノ負擔力内地ニ比シテ遜色アラサル狀況ナルヲ以テ本案ノ課稅ハ土地ノ賣買ニ關シ却テ良好ナル

影響ヲ及ホスヘキモノナルニ依リ將來移住者ニ對シ御懸念ノ如キ支障ヲ來ササルモノナリト思
慮ス

○副委員長西川甚五郎 明治四十年法律第二十一號中改正法律案ノ質問ハ終了シタル旨ヲ告ケ大正

九年法律第十二號中改正法律案ニ付政府委員ノ說明ヲ求ム

○政府委員草間秀雄 本案ハ從來各殖民地ニ於テ法人ノ所得ニノミ課税シタルモ今後ハ各殖民地

中臺灣ニ於テハ個人所得ニ對シ課税スルコトト爲リタルヲ以テ内地ト殖民地トノ間ニ於ケル重

複課税ヲ避クル爲本案ヲ提出シタル所以ナリ又他ノ一點ハ法人ノ規定中ニ脱漏セラレタルモノ

ニシテ例ヘハ會社合併ノ場合ニ就テ之ヲ言フトキハ臺灣ノ會社ヲ内地ノ會社ニ合併シタリトセ

ムニ臺灣ニ於テハ既ニ會社ノ存在ナキカ故ニ其ノ合併以前ニ終了シタル事業年度ノ所得税ニ對

シテハ課税スルコト能ハサルニ依リ本案ハ斯ル場合ニ於テ合併後存立スル内地ノ會社ニ對シ課

税ノ義務ヲ負ハシムルコトト爲セリ

○委員男爵安場末喜 然ラハ内地ノ會社ヲ臺灣ノ會社ニ合併シタルトキハ臺灣ニ於テ課税スルモ

ノナリヤ

○政府委員草間秀雄 然リ

○委員子爵豐岡圭資 本案第四條ニ就テ一應承リタシ

○政府委員草間秀雄 第四條ハ外國人ニ關スル規定ニシテ之マテ外國人ニ對シテハ別ニ綜合課税

ヲ爲ササリシモ特ニ之ヲ取扱フヘキ必要ナキモノトノ見地ヨリ本條ニ依リ總テ内地人ト同一方

針ニ基キ其ノ差別ヲ設ケサルコトト爲セリ

○委員淺田德則 個人又ハ法人カ内地ニ於テ住所並資産ヲ有シ臺灣ニ於テ經營スル法人ニシテ主

タル住所ナキ者ノ所得ノ場合即配當金等領收ニ際シテハ何レノ地ニ於テ課税セララルモノナリ

ヤ

○政府委員草間秀雄 此ノ場合ハ即本案第五條ニ規定セラレアリ個人カ内地ニ於テ住所資産ヲ有

シ臺灣ニ於テ經營スル法人ヨリ生スル所得ニ對シテハ内地ニ於テ課税シ臺灣ニ於テハ之ヲ爲サ

ス

○委員淺田德則 住所ノ位置ニ依リ課税收入ニ減少ヲ來タスコトナキヤ

○政府委員草間秀雄 相互ノ差引勘定ニ於テ同一課税トナルヘシト考フ

○委員男爵安場末喜 滿洲ニ住居スル株主ニ對シテハ其ノ地ニ於テ課税スルヤ

○政府委員草間秀雄 此ノ場合ニ於テハ滿洲ニ住居スル株主カ臺灣ノ法人ノ配當ヲ受クルモノナ

ルニ依リ臺灣ニ於テノミ課税セラルルモノトス尙朝鮮ニ在リテハ第二種ノ所得即個人所得ニ付課税ノ制ナキヲ以テ臺灣ニ於テ課税スヘキ筋合トナルモノナリ

○委員淺田德則 朝鮮ニ居住シ内地ト臺灣ニ於テ所得アル者ハ何レノ地ニ於テ課税セラルルヤ又現在ハ如何ナル取扱ト爲リ居ルヤ

○政府委員草間秀雄 此場合ハ内地臺灣各別ニ課税ス然レトモ現在臺灣ニ於テ個人所得ニ對シ課税セラレサルニ依リ内地ニ於テノミ課税シツツアリ

○委員西川甚五郎 臺灣ニ於テ本法ヲ施行スレハ其ノ收入ハ一ケ年何程トナルヤ

○政府委員阿部滂 大正十年度ニ於テ所得税概算二百五十萬圓ト見積リ居レリ

○委員子爵豊岡圭資 此中臺灣土着ノ人ハ凡ソ何程ヲ納付スルヤ

○政府委員阿部滂 其ノ點ハ此所ニ書類ヲ所持セサルニ依リ其ノ計數ヲ擧ケ難キモ二百五十萬圓ハ總テ在任者ノ所得ナリ

○副委員長西川甚五郎 兩案ニ付テ質疑ナシト認メ表決ニ付ス

○副委員長西川甚五郎 兩案茲ニ全會一致ヲ以テ可決セラレタル旨ヲ告ケ散會ヲ命ス

散會 午後二時二十六分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

大正九年法律第十二號中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十年三月十二日

右特別委員副委員長

西川甚五郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

明治四十年法律第二十一號中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十年三月十二日

右特別委員副委員長

西川甚五郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 荒井賢太郎印
副委員長 西川甚五郎印

大正十年三月二十二日

大正十年三月二十二日

大正十年三月二十二日

大正十年三月二十二日

大正十年三月二十二日

大正十年三月二十二日

大正十年三月二十二日

大正十年三月二十二日

大正十年三月二十二日

大正十年三月二十二日

大正十年三月二十二日

大正九年勅令第五百三十四號(承諾ヲ求ムル件)特別委員會

委員選舉

○大正十年三月一日議長ノ指名ヲ以テ大正九年勅令第五百三十四號(承諾ヲ求ムル件)特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

侯爵	中山	輔親
男爵	小澤	武雄
子爵	西尾	忠方
男爵	小牧	昌業
男爵	神田	乃武
男爵	毛利	五郎
男爵	伊達	宗曜
男爵	小池	靖一
男爵	勝田	銀次郎

○大正十年三月一日議長ノ指名ヲ以テ大正九年勅令第五百三十四號(承諾ヲ求ムル件)特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

○大正十年三月十日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 男爵 小澤武雄
副委員長 男爵 毛利五郎

會議

第一回 大正十年三月十五日

出席委員

委員長 男爵 小澤武雄 副委員長 男爵 毛利五郎
委員 侯爵 中山輔親 同 子爵 西尾忠方
同 男爵 伊達宗曜

出席國務大臣

司法大臣 伯爵 大木遠吉

出席政府委員

外務省條約局長 山川端夫
司法省民事局長 山内確三郎

開會 午後一時四十四分

司法省參事官

池田寅二郎

○委員長男爵小澤武雄 開會ヲ宣告ス

(參照)

大正九年勅令第五百三十四號(承諾ヲ求ムル件)

勅令第五百三十四號

大正九年勅令第七十一號ハ、奧地利國又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル政府管理財産ヲ以テ同盟及聯合國ト、奧地利國トノ平和條約第二百四十九條ニ規定スル支拂ニ充ツル場合ニ之ヲ準用ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長男爵小澤武雄 散會ヲ命ス

散會 午後二時四十分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

大正九年勅令第五百三十四號

右承諾スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十年三月十五日

大正九年勅令第五百三十四號

右特別委員長

男爵 小澤 武雄

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長 男爵 小澤 武雄 印

副委員長 男爵 毛利 五郎 印

治安警察法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○大正十年三月一日議長ノ指名ヲ以テ治安警察法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

伯爵 中川 久任

子爵 五條 爲功

男爵 杉 溪言長

男爵 木場 貞長

男爵 清水 資治

三宅 秀

川上 親晴

鎌田 榮吉

横山 章

委員長及副委員長選舉

○大正十年三月十一日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

○大正十年三月十一日委員會議事
 委員長 伯爵 中川久任
 副委員長 川上親晴

會議

第一回 大正十年三月十三日

出席委員

委員長 伯爵 中川久任 副委員長 川上親晴
 委員 木場貞長 同 三宅資秀
 同 横山章 同 木場貞長

出席政府委員

內務省警保局長 川村竹治

開會 午前十時三十八分

○委員長伯爵中川久任 開會ヲ宣告ス

(參照)

治安警察法中改正法律案

治安警察法中左ノ通改正ス

第五條第二項中「女子及」ヲ削ル

第二十三條第二十四條第二十六條第二十七條 第二十八條及第二十九條中「輕禁錮」ヲ「禁錮」ニ改ム

第三十條及第三十一條中「重禁錮」ヲ「懲役」ニ改ム

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長伯爵中川久任 散會ヲ命ス

散會 午前十一時十五分

第二回 大正十年三月二十五日

出席委員

委員長 伯爵 中川久任 副委員長 川上親晴
 委員 子爵 五條爲功 同 男爵 杉溪言長
 同 木場貞長 同 男爵 清水資治
 同 鎌田榮吉 同 横山章

出席政府委員

開會 午後一時四十分

内務省警保局長

川村竹治

○委員長伯爵中川久任 開會ヲ宣告ス

○委員橫山章・治安警察法規ヲ通覽スルニ他ニモ不完全ナル點多シ政府ハ全部ノ改正ヲ斷行セラ
ルル意思ナキヤ

○政府委員川村竹治 政府ハ本法ニ不備ノ點アルヲ察知シ其ノ改正ニ付十分ノ研究ト考慮ヲ費シ
ツツアレトモ未タ成案ヲ得サルヲ遺憾トス本案ハ政府ノ提案セシモノニアラサレトモ部分的改
正ノ點ニ付テハ政府モ全ク賛成ナレハ本案ニ同意ヲ表シタルモノナリ

○委員男爵清水資治 第五條ニ女子ヲ包含セシメタル理由如何

○政府委員川村竹治 本法制定ノ當時ニ於テハ女子ノ教育程度モ低ク又國民ノ政治思想モ幼稚ニ
シテ女子ハ専ラ家ヲ守ルヲ以テ本則ト考ヘラレタリ然ルニ時勢ノ進運ニ伴ヒ女子ノ教育程度モ
漸次向上シ政治ニ對スル趣味モ愈濃厚ト爲レリ是ニ於テ女子モ亦政談集會ニ會同シ若クハ其ノ
發起人ト爲ルコトヲ得ルハ時勢ニ順應スルモノト謂フヘシ

○委員男爵清水資治 今日ハ女子ノ教育程度ハ昔日ニ比シ大ニ進歩セリ云々ト説明セラルルカ精
神上及人倫上ニ於テ其ノ進歩ノ形跡ハ立證セラレ得ルヤ

○政府委員川村竹治 本員ハ其ノ點ニ付テハ専門家ニアラサレハ具體的ニ説明スルコト困難ナリ
然レトモ一般的ニ觀察スルトキハ進歩ノ證左ハ歴然タリ

○委員男爵清水資治 女子カ政談集會ニ會同シ若クハ其ノ發起人ト爲ルコトヲ希望スル熱度及之
ニ對スル一般ノ意嚮如何

○政府委員川村竹治 國民全般ヨリ之ヲ見ルトキハ比較的少數ナルモ而モ年々増加スルノ傾向ア
ルハ議會ニ於ケル女子傍聽者ノ増加ニ見テモ其ノ一端ヲ窺知スルコトヲ得ヘシ社會一般ノ輿論
ハ女子ニ政談集會等ノ權利ヲ附與スルヲ妥當ナリト思惟スルモノノ如シ

○委員長伯爵中川久任 質問終了シタリト認メ討論ニ入ルヘキ旨ヲ宣告ス

○委員男爵清水資治 從來ノ政談演說ヲ聽クニ概ネ政敵ノ人身攻撃ヲ爲シ聊モ人倫道義ニ裨益ス
ルコトナク却テ國家社會ニ害惡ヲ流スコト多シト認ム徒ラニ言論ヲ壓迫スルニアラサルモ女子
カ演壇ニ立テ徒ラニ他ノ身上ヲ非難攻撃スルヲ事トスルニ至リテハ從來ノ淳風良俗ヲ破壊スル
ノ結果ヲ招來スルニ終ラムコトヲ虞ルノミ以上ノ理由ニ依リ本員ハ改正案ニ反對ス

○委員鎌田榮吉 清水男爵ノ御説ノ如キ非難ハ之ヲ認ムルモ併シナカラ是レ人ノ本來ノ缺陷ニシテ如何トモ爲シ難シ然ラハ絶對ニ言論ヲ禁止セムカ其ノ害タルヤ言論ヨリ來ル弊ト其ノ比ヲ同フスルコト能ハス又言論ノ及ホス影響ニ付テ之ヲ見ルモ其ノ利害ノ比較ハ要スルニ利益ノ遙ニ優リ居ルコトハ何人モ否定スルコトヲ得サル事實ナリ然ルニ其ノ害毒ノミヲ見テ其ノ利益ヲ顧ミサルハ其ノ當ヲ得タル觀察ニアラサルナリ言論ニシテ利益多ケレハ何故ニ女子ノミニ限リ之ヲ禁止スルカ頗ル其ノ理由ヲ發見スルニ苦シムナリ本員ハ敢テ急激ノ變化ヲ望ムニアラサルモ本案規定ノ如キハ時機既ニ遅キニ失スルノ嫌ナキニアラス故ニ本員ハ改正案ニ賛意ヲ表スルナリ

○委員長伯爵中川久任 本案ヲ表決ニ付ス

可決

○委員長伯爵中川久任 本案ハ可決セラレタル旨ヲ宣告シ散會ヲ命ス

散會 午後三時

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

治安警察法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十年三月二十五日

右特別委員長

伯爵 中川 久任

貴族院議長公爵徳川家達殿

(附記) 本案ハ大正十年三月二十六日議院ニ於テ之ヲ否決セリ

委員長	伯爵	中川	久任	印
副委員長		川上	親晴	印

委員 伯爵 柳原義光
 委員 子爵 高倉永則
 委員 男爵 坂本俊篤
 委員 男爵 阪谷芳郎
 委員 男爵 藤井包總
 委員 加藤恒忠
 委員 湯淺倉平
 委員 三木與吉郎

航空法案特別委員會

無線電信法中改正法律案特別委員會

(附記) 右各特別委員會會議錄ハ便宜之ヲ一括ス

委員選舉

○大正十年三月五日議長ノ指名ヲ以テ航空法案特別委員、無線電信法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

伯爵 柳原義光
 子爵 高倉永則
 男爵 坂本俊篤
 男爵 阪谷芳郎
 男爵 藤井包總
 加藤恒忠
 湯淺倉平
 三木與吉郎

委員長及副委員長選舉

○大正十年三月十日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

富永	永	猿	雄
柳原	義	光	
副委員長	男爵	坂本	俊
委員長	伯爵	柳原	義
副委員長	男爵	坂本	俊
委員長	伯爵	柳原	義
副委員長	男爵	坂本	俊

會議

第一回 大正十年三月十四日

出席委員

委員長	伯爵	柳原	義	光	副委員長	男爵	坂本	俊	篤
委員	男爵	阪谷	芳	郎	同	男爵	藤井	包	總
同		加藤	恒	忠	同		湯淺	倉	平
同		三木	與	吉	郎				
出席委員外議員	男爵	東	郷	安					

出席政府委員

陸軍	次官	山	梨	半	造
陸軍	中將	井	上	幾	太郎
海軍	次官	井	出	謙	治

出席説明員

航空局	書記官	神	田	三	純
開會	午後一時二十三分				

○委員長伯爵柳原義光 開會ヲ宣告ス

(參照)

航空法案

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ航空機トハ人ノ搭乘シ得ル氣球、凧、航空船及飛行機ヲ謂フ

本法ニ於テ航空トハ陸上又ハ水上ノ滑走ヲ、離陸又ハ著陸トハ離水又ハ著水ヲ包含ス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ所有スル航空機ハ之ヲ日本航空機トス

一 日本國又ハ日本ノ公共團體

二 日本臣民

三 日本法令ニ依リ設立シタル會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民タルモノ

四 前號ニ掲クル法人以外ノ法人ニシテ日本法令ニ依リ設立シ其ノ代表者ノ全員カ日本臣民タルモノ

第三條 本法ハ本章及第四十一條乃至第四十三條ノ規定ヲ除クノ外軍用航空機ニ之ヲ適用セス國ノ使用ニ供スル航空機ニ付テハ第二十一條、第二十八條乃至第三十條、第三十三條、第三十四條及第四十條ノ規定ニ關シ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第四條 航空ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第二章 航空機ノ検査及登録

第五條 航空機ヲ製造スル者ハ其ノ設計、材料、部分品、技功及製品ニ付行政官廳ノ検査ヲ受クヘシ

堪航證明書ナキ航空機ノ所有者ハ其ノ航空機ニ付行政官廳ノ検査ヲ受クヘシ
前二項ノ検査ニ合格シタル航空機ニ對シテハ堪航證明書ヲ交付ス

第一項及第二項ノ規定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル航空機ニ之ヲ適用セス

第六條 堪航證明書ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

- 一 堪航證明書ニ記載シタル有効期間ヲ經過シタルトキ
 - 二 第十四條第一項ノ規定ニ依リ航空機ノ使用ノ禁止ヲ命シタルトキ
- 前項第一號ノ有効期間ハ前條ノ検査ニ合格シタル日ヨリ起算シ六月以内ニ於テ行政官廳之ヲ定ム有効期間ハ第十一條ノ検査ノ結果ニ依リ検査ノ日ヨリ起算シ六月以内ニ於テ行政官廳之ヲ延長スルコトヲ得

第七條 第五條ノ検査ニ合格シタル航空機ノ所有者ハ行政官廳ニ其ノ航空機ノ登録ヲ申請スルコトヲ得

航空機ノ登録事項ハ航空機ノ所有者ノ氏名名稱、登録記號其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項トス
登録シタル事項ニ變更アリタルトキハ航空機ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政

官廳ニ變更ノ登録ヲ申請スヘシ

登録シタル航空機ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ航空機ノ所有者ノ氏名名稱、登録記號其ノ他ノ登録事項ヲ記載シタル登録證明書ヲ交付ス

第八條 航空機カ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ際ノ航空機ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政官廳堪航證明書ヲ返付スヘシ

一 滅失又ハ破壊シタルトキ

二 解撤セラレタルトキ

三 其ノ堪航證明書カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ

登録シタル航空機カ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ際ノ航空機ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政官廳ニ登録證明書ヲ返付スヘシ

一 滅失又ハ破壊シタルトキ

二 解撤セラレタルトキ

三 日本國籍ヲ喪失シタルトキ

四 其ノ堪航證明書カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ同時ニ抹消登録ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ抹消登録ノ申請ナキトキ又ハ第二項第四條ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲スコトヲ得

第九條 登録シタル航空機ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ國籍記號、登録記號並所有者ノ氏名名稱及住所ヲ表示スヘシ

第十條 航空機ハ前條ノ規定ニ依ル表示ヲ爲シ且堪航證明書及登録證明書ヲ備附クルニ非サレハ之ヲ航空ノ用ニ供スルコトヲ得ス

第十一條 行政官廳ハ定期又ハ臨時ニ航空機ノ検査ヲ爲スコトヲ得

第十二條 第五條第一項第二項及第十條ノ規定ハ航空機ノ試験ノ爲飛行場又ハ命令ヲ以テ定ムル場所ニ於テ航空スル航空機ニ關シテハ之ヲ適用セス

第十三條 第五條、第七條、第八條及第十一條ニ規定スルモノノ外航空機ノ検査又ハ登録ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 行政官廳ハ第十一條ノ検査ノ結果ニ基キ其ノ他航空機ノ現狀ニ因リ必要アルトキハ航空機ノ使用ノ制限、停止又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ規定ニ依リ制限ヲ命シタルトキハ堪航證明書ニ制限事項ヲ附記シ停止ヲ命シタルトキハ停止中堪航證明書ヲ領置ス

第三章 乗員

第十五條 航空機ノ乗員ニ非サレハ航空機ニ搭乘シテ其ノ運航ニ從事スルコトヲ得ス
乗員ハ技備證明書及航空免狀ヲ有スルコトヲ要ス

第十六條 技備證明書ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ行フ考査ニ合格シタル者ニ之ヲ交付ス
技備證明書ヲ有スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ航空免狀ノ交付ヲ受クルコトヲ得

第十七條 乗員ハ技備證明書及航空免狀ヲ携帯スルニ非サレハ運航ニ從事スルコトヲ得ス

第十八條 行政官廳ハ乗員ニ對シ定期又ハ臨時ニ檢査ヲ爲スコトヲ得

第十九條 第十五條第一項ノ規定ハ飛行場又ハ命令ヲ以テ定ムル場所ニ於テ航空機ニ搭乘シテ運航練習ヲ爲ス者及運航練習ノ爲乗員ト同乗シテ運航ニ從事スル者ニ之ヲ適用セス

第二十條 行政官廳ハ乗員引續キ六月以上運航ニ從事セサルトキ、第十八條ノ檢査ノ結果ニ基キ必要アルトキ又ハ保安上必要アルトキハ就業ノ制限、停止又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得
行政官廳ハ前項ノ規定ニ依リ制限ヲ命シタルトキハ航空免狀ニ制限事項ヲ附記シ停止ヲ命シ

タルトキハ停止中航空免狀ヲ領置ス

第一項ノ規定ニ依リ禁止ヲ命セラレタル乗員ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政官廳ニ航空免狀ヲ返付スヘシ

第四章 飛行場及其ノ經營者

第二十一條 飛行場ヲ設置セムトスル者、其ノ區域ヲ變更セムトスル者又ハ公共ノ用ニ供スル飛行場ヲ廢止セムトスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ
公共ノ用ニ供スル飛行場ヲ公共ノ用ニ供セサル飛行場ニ變更シ又ハ公共ノ用ニ供セサル飛行場ヲ公共ノ用ニ供スル飛行場ニ變更セムトスル者亦同シ

第二十二條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ航空ニ必要ナル設備ヲ爲スヘシ

第二十三條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ飛行場ヲ他ノ目的ニ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ得ス

第二十四條 行政官廳ハ飛行場ノ境界ヨリ外方五百メートルノ區域内ニ於テ航空ノ障礙ト爲ルハキモノアルトキハ飛行場ノ經營者ニ對シ必要ナル航空標識ノ設置ヲ命スルコトヲ得

飛行場ノ經營者ハ前項ノ航空標識ノ設置又ハ維持ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ
 日出後日没前ニ限り他人ノ土地ニ立入り若ハ障礙ト爲ルヘキ物件ヲ除去シ又ハ必要ナル土地
 若ハ物件ヲ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ經營者ハ豫メ其ノ土地又ハ物件ノ占有者ニ其
 ノ旨通知スヘシ
 飛行場ノ經營者ハ第一項ノ航空標識ノ維持ノ爲緊急ノ必要アルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス他
 人ノ土地ニ立入り若ハ障礙ト爲ルヘキ物件ヲ除去シ又ハ必要ナル土地若ハ物件ヲ使用スルコ
 トヲ得此ノ場合ニ於テハ經營者ハ遲滞ナク其ノ旨行政官廳ニ届出テ且其ノ土地又ハ物件ノ占
 有者ニ通知スヘシ
 第二十五條 前條ノ規定ニ依ル立入、除去又ハ使用ニ因リ生シタル損害ハ飛行場ノ經營者之ヲ
 補償スヘシ
 前項ノ規定ニ依ル補償ノ金額ニ關シ協議調ハサルトキハ行政官廳ノ決定ヲ求ムルコトヲ得
 前項ノ決定ニ不服アル者ハ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三月以内ニ通常裁判所ニ
 出訴スルコトヲ得
 第二十六條 第二十四條第二項第三項及前條ノ規定ハ許可又ハ届出ニ關スル規定ヲ除クノ外軍

用ニ供スル飛行場ノ境界ヨリ外方五百メートルノ區域内ニ於テ航空ノ障礙ト爲ルヘキモノ
 アルトキ必要ナル航空標識ヲ設置又ハ維持スル場合ニ之ヲ準用ス
 第二十七條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ他人ノ運航スル航空船又ハ飛行機ニ對シ其ノ
 飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸スルコトヲ拒ムコトヲ得但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ
 此ノ限ニ在ラス
 前項ノ經營者其ノ飛行場ノ使用ニ對シ使用料ヲ請求セムトスルトキハ豫メ其ノ額ヲ定メ行政
 官ノ認可ヲ受クヘシ
 第二十八條 公共ノ用ニ供セサル飛行場ノ經營者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他人ノ
 運航スル他人ニ屬スル航空機ヲシテ其ノ飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸セシムルコトヲ得ス
 第五章 航空及運送
 第二十九條 航空船及飛行機ハ陸上ニ在リテハ飛行場ニ非サル場所、水上ニ在リテハ命令ヲ以
 テ禁止スル場所ニ於テ離陸又ハ著陸スルコトヲ得但シ故障若ハ避難ノ爲其ノ他已ムコトヲ
 得サル事由アルトキ又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第三十條 故ナク皇居、禁苑、離宮、行在所若ハ神宮ノ上空ニ於テ又ハ皇陵ノ上空千メートル

以下ニ於テ航空機ノ運航ヲ爲スコトヲ得ス
前項ニ掲クル場所ノ外航空ニ關スル制限又ハ禁止ヲ必要トスル場所ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條 戰時又ハ事變ニ際シ必要アルトキハ行政官廳ハ航空機ノ航空ヲ禁止スルコトヲ得
第二十二條 日本航空機ニ非サル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ航空ノ用ニ供スルコトヲ得ス

第二十三條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至リ若ハ日本國內ヨリ發航シテ日本國外ニ至ル航空機又ハ日本國外ヨリ發航シ著陸スルコトナクシテ日本國ヲ通過シ日本國外ニ至ル航空機ハ行政官廳ノ指定スル航空路ニ由リ航空スヘシ

第二十四條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至リ又ハ日本國內ヨリ發航シテ日本國外ニ至ル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ指定スル飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸スヘシ

第二十五條 日本航空機ニ非サル航空機ニ依リ有償ニテ日本各地ノ間ニ於テ旅客又ハ貨物ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ日本航空機ニ依リ運送業ヲ營ムコトヲ得ス

第六章 雜則

第三十七條 航空標識ノ用地又ハ公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地トスル爲必要ナル土地及水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ハ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得前項ノ規定ニ依リ收用又ハ使用ニ關シテハ土地收用法ヲ適用ス

第三十八條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ因リ其ノ地租ヲ免除ス但シ一時ノ使用ニ供スルモノ又ハ有料借地ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條 關稅法中船舶、船長、船用品及海路運送並之ニ關スル犯罪事件ノ調査、處分及處罰ニ付テノ規定ハ航空機、航空機ノ長、航空機ノ機用品及航空機ニ依ル外國貨物ノ運送並之ニ關スル犯罪事件ノ調査、處分及處罰ニ付之ヲ準用ス但シ關稅法中開港トアルハ第三十四條ノ飛行場トス

第四十條 第三十三條ノ航空機カ故障又ハ避難ノ爲其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ第三十四條ニ規定スル著陸ノ場所以外ニ著陸シタルトキハ稅關官吏其ノ地ニ在ル場合ニ於テハ稅關官吏ニ、稅關官吏其ノ地ニ在ラサル場合ニ於テハ警察官吏ニ遲滯ナク届出ツヘシ

前項ニ規定スル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ離陸スルコトヲ得ス

第四十一條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至ル航空機ニ關シテハ傳染病豫防ノ爲檢疫ヲ施行ス

前項ノ檢疫ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十二條 前條ノ規定ハ内地、朝鮮、臺灣相互間ニ付之ヲ準用ス

前項ノ内地ニハ樺太ヲ包含ス

第四十三條 航空機ノ救難及之ニ關スル處罰ニ付テハ水難救護法ヲ準用ス

第四十四條 左ノ事項ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

- 一 航空機ニ備附クヘキ日誌其ノ他ノ帳簿書類及附屬品其ノ他ノ物件ニ關スル事項
- 二 保安上又ハ軍事上ノ必要ノ爲航空機ニ搭載スルコトヲ制限又ハ禁止スル火藥類、寫眞機其ノ他ノ物件ニ關スル事項
- 三 航空機ニ關スル燈火及信號ニ關スル事項
- 四 航空ニ關スル保安上必要ナル制限及航空機ト船舶トノ衝突豫防ニ關スル事項
- 五 航空標識及其ノ設置ニ關スル事項

六 飛行場ノ設備ニ關スル事項

第四十五條 當該官吏ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ナリト認ムルトキハ航空機ノ離陸差止又ハ著陸ヲ命スルコトヲ得

第四十六條 當該官吏ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ナリト認ムルトキハ航空機、飛行場又ハ格納庫ニ臨檢シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ備附ヲ要スル帳簿書類及物件ニ關シ檢査ヲ爲スコトヲ得

第四十七條 朝鮮及臺灣ニ於テハ第三十七條第二項、第三十八條及第四十三條ノ規定ニ關シ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七章 罰則

第四十八條 航空標識ヲ損壞シタル者又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ無効タラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條 詐僞ノ信號ヲ爲シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ航空ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第五十條 現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ヲ墜落、顛覆若ハ覆沒セシメ又ハ破壊シタル者ハ無期

又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

前條ノ罪ヲ犯シ因テ現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ノ墜落、顛覆、覆没又ハ破壊ヲ致シタル者亦前項ノ例ニ同シ

第五十一條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第五十二條 過失ニ因リ航空ノ危険ヲ生セシメ又ハ現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ノ墜落、顛覆、覆没又ハ破壊ヲ致シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

其ノ業務ニ従事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
第五十三條 詐術ヲ用非第五條若ハ第十一條ノ検査ヲ受ケ又ハ不實ノ事項ヲ登録セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 第四十九條、第五十條第一項及前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第五十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第五條又ハ第十一條ノ検査ニ合格セサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ第三十二條ノ規定ニ違反シタル者

二 第十四條第一項ノ規定ニ依リ行政官廳ノ爲シタル命令ニ違反シタル者

三 第九條ノ規定ニ違反シテ國籍記號若ハ登録記號ヲ表示セサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ虚偽ノ國籍記號若ハ登録記號ヲ表示シタル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者

第五十六條 第十五條第一項ノ規定ニ違反シタル者又ハ第二十條第一項ノ規定ニ依リ爲シタル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十七條 第三十條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第三十條第二項ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止ニ違反シタル者、第三十一條ノ規定ニ依ル禁止ニ違反シタル者又ハ第三十三條ノ規定ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十八條 第二十九條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第四十五條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ命令ニ違反シタル令ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二十四條第一項ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者

二 故ナク當該官吏ノ臨檢若ハ検査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第六十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第九條ノ規定ニ違反シテ航空機所有者ノ氏名名稱若ハ住所ヲ表示セサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ虛偽ノ氏名名稱若ハ住所ヲ表示シタル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者

二 第十條ノ規定ニ違反シテ堪航證明書又ハ登録證明書ヲ備附ケサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者

三 第十七條ノ規定ニ違反シタル者

第六十一條 第二十一條、第二十二條、第二十七條第一項、第二十八條、第三十四條乃至第三十六條又ハ第四十條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二十三條ノ規定ニ違反シタル者

二 第二十七條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケスシテ使用料ノ請求ヲ爲シタル者

第六十三條 本法ノ罰則ハ法人ニ在リテハ其ノ行爲ヲ爲シタル理事、取締役其ノ他ノ代表者ニ之ヲ適用ス

第六十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ過料ニ處ス

一 第五條第一項又ハ第二項ノ規定ニ違反シタル者

二 第七條第三項又ハ第八條第三項ノ規定ニ依ル登録ノ申請ヲ怠リタル者

三 第八條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル堪航證明書又ハ登録證明書ノ返付ヲ怠リタル者

四 第二十條第三項ノ規定ニ依ル航空免狀ノ返付ヲ怠リタル者

五 第四十條第一項ノ規定ニ届出ヲ怠リタル者

第六十五條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

無線電信法中改正法律案

無線電信法中左ノ通改正ス

第二十九條 本法ハ航空機ニ施設スル無線電信及無線電話ニ關シ之ヲ準用ス

第三十條 本法ノ適用ニ付テハ航空機ハ之ヲ船舶ト看做ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵柳原義光 散會ヲ命ス

第二散會 午後四時四分

第二回 大正十年三月十五日

出席委員

委員長 伯爵 柳原 義光 副委員長男爵 坂本 俊篤

委員 員子爵 高以倉 永則 同 男爵 阪谷 芳郎

同 男爵 藤井 包總 同 湯淺 倉平

出席政府委員 第一 陸軍 次官 山梨 半造

第二 陸軍 中將 上幾 太郎

第三 海軍 次官 井出 謙治

第四 司法事務官 山岡 萬之助

遞信省通信局長 米田 奈良吉
航空局書記官 神田 純一

出席説明員

大正十年三月十五日

○副委員長男爵坂本俊篤 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵柳原義光 休憩ヲ命ス

休憩 午後零時二分

開會 午後一時二十九分

○委員長伯爵柳原義光 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵柳原義光 休憩ヲ命ス

休憩 午後三時二十分

開會 午後五時八分

○委員長伯爵柳原義光 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵柳原義光 散會ヲ命ス

散會 午後五時二十六分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

航空法案

右別冊ノ通修正セリ依テ及報告候也

大正十年三月十五日

右特別委員長

伯爵 柳原義光

貴族院議長公爵徳川家達殿

(附記) 別冊略之貴族院議事速記録第二十一號三百七十頁及三百七十一頁參照

無線電信法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十年三月十五日

右特別委員長

伯爵 柳原義光

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 伯爵 柳原義光印

副委員長 男爵 坂本俊篤印

度量衡法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○大正十年三月五日議長ノ指名ヲ以テ度量衡法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

- | | |
|----|-------|
| 伯爵 | 堀田正恒 |
| 子爵 | 六郷政賢 |
| | 大澤謙二 |
| | 櫻井錠二 |
| 男爵 | 楠本正敏 |
| 男爵 | 調所恒徳 |
| | 三宅秀 |
| | 山田敏 |
| | 近岡理三郎 |

委員長及副委員長選舉

○大正十年三月十日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

會議

第一回 大正十年三月十六日

出席委員

委員長	伯爵	堀田	正恒	副委員長	三宅	秀
委員	子爵	六郷	政賢	同	大澤	謙二
同	同	櫻井	錠二	同	楠本	正敏
同	男爵	調所	恒德	同	山	田
同	同	近岡	理三郎	同	山	田

出席政府委員

農商務省工務局長	男爵	四條	隆英
農商務技師		橋川	司亮

開會 午前十時二十五分

○委員長伯爵堀田正恒 開會ヲ宣告ス

(參照)

度量衡法中改正法律案

度量衡法中左ノ通改正ス

第一條 度量ハメートル、衡ハキログラムヲ以テ基本トス

メートルハ融解シツツアル純粹ノ水ノ氷ノ溫度ニ於ケル國際メートル原器ノ長トス

キログラムハ國際キログラム原器ノ質量トス

第二條 メートルハメートル條約ニ依リ帝國ニ交付セラレタルメートル原器ニ依リ、キログラ

ムハメートル條約ニ依リ帝國ニ交付セラレタルキログラム原器ニ依リ之ヲ現示ス

第三條 度量衡ノ名稱命位ヲ定ムルコト左ノ如シ

度

ミクロン	メートルノ百萬分ノ一
ミリメートル	メートルノ千分ノ一
センチメートル	メートルノ百分ノ一

デシメートル

メートルノ十分ノ一

メートル

キロメートル

千メートル

面積

平方ミリメートル

平方メートルノ百萬分ノ一

平方センチメートル

平方メートルノ一萬分ノ一

平方デシメートル

平方メートルノ百分ノ一

平方メートル

平方キロメートル

百萬平方メートル

量

立方センチメートル

立方メートルノ百萬分ノ一

立方デシメートル

立方メートルノ百分ノ一

立方メートル

衡

ミリグラム

キログラムノ百萬分ノ一

グラム

キログラムノ千分ノ一

キログラム

トン

千キログラム

前項ニ規定スル度量衡又ハ其ノ倍數若ハ分數ニ依ル度量衡ニシテ土地又ハ液體ノ計量其ノ他特殊ノ場合ニ用ウルモノノ名稱命名ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條ヲ削リ第四條ノ二ヲ第四條トス

第五條第一項中「度量衡ノ原器」ヲ「第二條ニ掲クル度量衡ノ原器」ニ改メ同條第二項中「度量衡ノ原器」ヲ「前項ノ原器」ニ、「原器」ニ代用ス」ヲ「前項ノ原器ニ代用ス」ニ改ム

第五條ノ二 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依ラサル度量衡又ハ計量ノ單位ハ勅令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外取引上又ハ證明上ニ之ヲ用ウルコトヲ得ス

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第五條ノ二ニ違反シタル者

二 當該官吏ノ訊問ニ對シ虛偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ之ヲ忌避シ若ハ

之ニ支障ヲ加ヘタル者

第二十條ヲ削リ第十九條ノ二ヲ第二十條トス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

從來慣用ノ度量衡ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ當分ノ内仍之ヲ用ウルコトヲ得

本法施行前檢定ヲ受ケタル度量衡器又ハ計量器ニシテ第三條第一項ノ規定又ハ同條第二項若ハ

第四條ニ基キテ發スル勅令ニ依ル度量衡又ハ計量ノ單位ニ依ラサルモノニ付テハ勅令ノ定ムル

所ニ依リ其ノ檢定ノ效力ヲ失ハシムルコトヲ得

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長伯爵堀田正恒 散會ヲ命ス

散會 午前十一時三十一分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

度量衡法中改正法律案

右別冊ノ通修正セリ依テ及報告候也

大正十年三月十六日

右特別委員長

伯爵 堀田 正 恒

貴族院議長公爵徳川家達殿

(附記) 別冊略之貴族院議事速記録第二十號三百九十三頁參照

委員長 伯爵 堀田 正 恒 印

副委員長 三 宅 秀 印

（附註） 附選權之員對於附選權之員二十號二百八十三員之選權
貴族院議員 櫻井 武俊

委員長 三 幸 孝明
委員 田 五 野 明
委員 田 五 野 明

戶籍法中改正法律案特別委員會
委員選舉 千四百十八

○大正十年三月八日議長ノ指名ヲ以テ戶籍法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

- 伯爵 松 木 浦 厚
- 子爵 唐 橋 在 正
- 子爵 東 坊 城 徳 長
- 男爵 伊 達 宗 曜
- 男爵 佐 竹 義 準
- 石 渡 敏 一
- 野々村 久次郎
- 石 橋 謹 二
- 竹村 與 右衛門

委員長及副委員長選舉

○大正十年三月十日委員長及副委員長又互選ス其ノ結果左ノ如シ

會議

第一回 大正十年三月二十日

出席委員

委員長	子爵	唐橋	在正	委員	子爵	東坊城	德長
同	男爵	伊達	宗耀	同	男爵	佐竹	義準
同		野々村	久次郎	同		石橋	謹二
同		竹村	右與衛門				

出席政府委員

司法次官	鈴木喜三郎
司法省參事官	池田寅二郎

開會 午後一時二十八分

○委員長子爵唐橋在正 開會ヲ宣告ス

(參照)

戶籍法中改正法律案

戶籍法中左ノ通改正ス

第四十二條ノ二 第三十一條乃至第三十四條及ヒ第三十五條第一項ノ規定ハ共通法第三條ノ規定ニ依リテ内地ノ家ヲ去リタル者及ヒ他ノ地域ノ家ヲ去リテ内地ノ家ニ入リタル者ノ戶籍ノ記載手續ニ付キ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長子爵唐橋在正 散會ヲ命ス

散會 午後一時五十一分

第二回 大正十年三月二十三日

出席委員

委員長	子爵	唐橋	在正	委員	子爵	東坊城	德長
-----	----	----	----	----	----	-----	----

同	男爵	佐竹	義準	同	野々村	久次郎
同		石橋	謹二	同	竹村	與右衛門

開會 午後一時十七分

○委員長子爵唐橋在正 開會ヲ宣告ス

○委員長子爵唐橋在正 散會ヲ命ス

散會 午後一時二十一分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

戶籍法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十年三月二十三日

右特別委員長

子爵 唐橋 在正

委員長 子爵 唐橋 在正

副委員長 石渡 敏一 印

貴族院議長公爵德川家建殿

特許法改正法律案特別委員會

實用新案法改正法律案特別委員會

意匠法改正法律案特別委員會

商標法改正法律案特別委員會

辦理士法案特別委員會

(附記) 右各特別委員會會議錄ハ便宜之ヲ一括ス

委員選舉

○大正十年三月八日議長ノ指名ヲ以テ特許法改正法律案、實用新案法改正法律案、意匠法改正法律案、商標法改正法律案、辦理士法案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

候爵	細川	護立
子爵	松平	直平
子爵	片桐	貞央
	松室	致
	和田	彦次郎

委員長及副委員長選舉

○大正十年三月十日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

男爵	高千穂	宜麿
男爵	木場	貞長
男爵	池田	長康
男爵	島津健之助	
	岡田	文次
	江木	翼
	大村	彦太郎
	鈴木	惣兵衛
	田中	源太郎
	今井	五介
委員長	侯爵	細川
副委員長		護立
		和田
		彦次郎

會議

第一回 大正十年三月十五日

出席委員

委員長	侯爵	細川	護立	副委員長	和田	彦次郎
委員	子爵	片桐	貞央	同	松室	致
同	男爵	高千穂	宜麿	同	池田	長康
同	男爵	島津健之助		同	岡田	文次
同		江木	翼	同	今井	五介

出席政府委員

農商務次官	田中	隆三
特許局長	宮内	國太郎
特許局事務官	馬場	穎一
特許局事務官	中松	真卿

開會 午前十時二十八分

○委員長公爵細川護立 開會ヲ宣告ス

(參照)

特許法改正法律案

特許法

(小字ハ衆議院ノ修正、——ハ同削除ノ符號ナリ)

第一章 總則

第一條 新規ナル工業的發明ヲ爲シタル者ハ其ノ發明ニ付特許ヲ受クルコトヲ得

第二條 特許權者又ハ特許出願者ハ其ノ發明ノ改良又ハ擴張ニ係ル新規ノ發明ニ付獨立ノ特許ニ代ヘ追加ノ特許ヲ受クルコトヲ得

第三條 左ニ掲クル發明ニ付テハ之ヲ特許セス

- 一 飲食物又ハ嗜好物
- 二 醫藥又ハ其ノ調合法
- 三 化學方法ニ依リ製造スヘキ物質
- 四 秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ衛生ヲ害スルノ虞アルモノ

第四條

本法ニ於テ發明ノ新規ト稱スルハ發明カ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトナキヲ謂フ

一 特許出願前帝國内ニ於テ公然知ラレ又ハ公然用井ラレタルモノ

二 特許出願前帝國内ニ頒布セラレタル刊行物ニ容易ニ實施スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ記載セラレタルモノ

第五條

特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者カ試験ノ爲其ノ者ノ發明ヲ前條各號ノ一ニ該當スルニ至ラシメタル場合ニ於テ其ノ日ヨリ六月以内ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキハ其ノ者ノ發明ハ之ヲ新規ナルモノト看做ス

特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者ノ意ニ反シテ其ノ者ノ發明カ前條各號ノ一ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ日ヨリ六月以内ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキ亦前項ニ同シ

第六條

特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者カ政府ノ開設シ、道府縣若ハ之ニ準スヘキモノノ開設シ若ハ政府ノ認可ヲ得テ開設スル博覽會又ハ工業所有保護權同盟條約國ノ版圖内ニ開設スル官設若ハ官許ノ萬國博覽會ニ出品ノ爲其ノ者ノ發明ヲ第四條各號ノ一ニ該當スルニ至ラシメタル場合ニ於テ其ノ開會ノ日ヨリ六月以内ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキハ其ノ者ノ發明ハ之ヲ新規ナルモノト見做ス

前項ニ掲クル萬國博覽會ヲ除クノ外外國ノ版圖内ニ開設スル官設又ハ官許ノ博覽會ニ出品スル發明ニ付保護ヲ與フルノ必要アルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 特許出願ハ一發明毎ニ之ヲ爲スヘシ但シ二以上ノ發明カ牽連シテ利用上一發明ヲ爲スモノト認メ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 同一發明ニ付テハ最先ノ出願者ニ限り特許ス但シ同日ノ各別ノ出願者アルトキハ出願者ノ協議ニ依リ特許シ協議調ハサルトキハ共ニ特許セス

第九條 二以上ノ發明ヲ包含スル特許出願ヲ二以上ノ出願ト爲シタルトキハ各出願ハ最初出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

追加ノ特許出願ヲ獨立ノ特許出願ニ、獨立ノ特許出願ヲ追加ノ特許出願ニ變更シタルトキ亦前項ニ同シ

第十條 特許出願カ特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ特許ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ爲シタルモノナルニ因リ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ其ノ特許出願ノ後ニ爲シタル正當權利者ノ出願ハ其ノ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル特許出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト見做ス但シ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル日ヨリ六十

日ヲ、出願公告アリタル場合ニ於テハ出願公告ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタル後ノ出願ニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 特許カ特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ特許ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ受ケタルモノナルニ因リ其ノ特許ヲ無効トスル審決確定シ又ハ判決アリタル場合ニ於テ其ノ特許ノ出願ノ後ニ爲シタル正當權利者ノ出願ハ其ノ無効ト爲リタル特許ノ出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ其ノ特許ノ出願公告ノ日ヨリ五年ヲ經過シタル後ノ出願又ハ其ノ審決確定シ若ハ判決アリタル日ヨリ後ノ出願ニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 特許ヲ受クルノ權利ハ之ヲ移轉スルコトヲ得但シ擔保ニ供スルコトヲ得ス
特許ヲ受クルノ權利カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

特許ヲ受クルノ權利ノ承繼ハ承繼人カ特許出願前ニ在リテハ特許ヲ出願シ特許出願後ニ在リテハ出願人名義ノ變更ヲ届出ツルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ同日ノ出願者ハ届出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十三條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル法定又ハ指定ノ期間ノ計算ハ左ノ規定ニ依ル

- 一 期間ノ初日ハ之ヲ算入セス但シ其ノ期間カ午前零時ヨリ始ルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 二 期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從フ月又ハ年ノ始ヨリ期間ヲ起算セサルトキハ其ノ期間ハ最後ノ月又ハ年ニ於テ其ノ起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但シ最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ滿了ス

特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ニ付テノ法定又ハ指定ノ期間ノ末日カ日曜日又ハ一般ノ祝祭日ニ當ルヘキトキハ其ノ日ノ翌日ヲ以テ其ノ期間ノ末日トス

第十四條 被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ其ノ勤務ニ關シ爲シタル發明ニ付テハ性質上使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ノ業務範圍ニ屬シ且其ノ發明ヲ爲スニ至リタル行爲カ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ任務ニ屬スル場合ノモノヲ除クノ外豫メ使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ヲシテ特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權ヲ承繼セシムルコトヲ定メタル契約又ハ勤務規程ノ條項ハ之ヲ無効トス
使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ハ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ其ノ勤務ニ關シ

爲シタル發明ニシテ性質上使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ノ業務範圍ニ屬シ且其ノ發明ヲ爲スニ至リタル行爲カ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ任務ニ屬スル場合ノモノニ付其ノ被用者、法人ノ役員若ハ公務員カ特許ヲ受ケタルトキ又ハ其ノ者ノ特許ヲ受クルノ權利ヲ承繼シタル者カ特許ヲ受ケタルトキハ其ノ發明ニ付實施權ヲ有ス

被用者、法人ノ役員又ハ公務員ハ前項ノ發明ニ付テノ特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權ヲ豫メ定メタル契約又ハ勤務規程ニ依リ使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ヲシテ承繼セシメタル場合ニ於テ相當ノ補償金ヲ受クルノ權利ヲ有ス前項ノ規定ニ依リ使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者カ其ノ發明ヲ實施スル場合亦同シ

使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ニ於テ既ニ支拂ヒタル報酬アルトキハ裁判所ハ前項ノ補償金ヲ定ムルニ付之ヲ斟酌スルコトヲ得

本條ニ於テ法人ノ役員ト稱スルハ法人ノ業務ヲ執行スル役員ヲ謂ヒ公務員ト稱スルハ刑法第七條第一項ノ公務員ヲ謂フ

第十五條 特許出願ニ係ル發明カ軍事上秘密ヲ要シ又ハ軍事上若ハ公益上必要ナルモノナルトキハ特許ヲ與ヘス、特許ヲ受クルノ權利ヲ政府ニ於テ收用シ又ハ制限ヲ附シテ特許ヲ與フルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ特許ヲ與ヘス、權利ヲ收用シ又ハ制限ヲ附シテ特許ヲ與フル場合ニ於テハ政府ハ相當ノ補償金ヲ支給ス

收用及補償金支給ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 帝國內ニ住所ヲモ居所ヲモ有セサル者ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外帝國内ニ住所又ハ居所ヲ有スル代理人ニ依ルニ非サレハ特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲シ又ハ特許權若ハ特許ニ關スル權利ヲ主張スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ出願若ハ請求又ハ主張ヲ爲ス代理人ハ特ニ授ケラレタル權限ノ外本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル手續並民事訴訟、私訴及告訴ニ付本人ヲ代表ス

特許權者又ハ特許權ニ關シ登録シタル權利ヲ有スル者ノ代理人ニシテ第一項ノ規定ニ依リ手續又ハ主張ヲ爲スモノノ選任若ハ變更又ハ代理權若ハ其ノ變更消滅ハ登録ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十七條 特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者ノ代理人ニシテ前條第三項ニ規定スル代理人ニ非サルモノノ選任若ハ變更又ハ代理權若ハ其ノ變更消滅ハ特許局ニ届出ツルニ非サレハ之ヲ以テ特許局ニ對抗スルコトヲ得ス

第十八條 特許ニ關スル代理人數人アルトキハ特許局ニ對シテハ共同又ハ各別ニ本人ヲ代表ス

第十九條 特許局長ニ於テ特許ニ關スル代理人ヲ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ改任ヲ命スルコトヲ得

特許局長又ハ審判長ニ於テ當事者、參加人若ハ特許異議申立人又ハ其ノ代理人カ手續又ハ演述ヲ爲スノ能力ナシト認ムルトキハ辨理士ヲ以テ代理セシムヘキコトヲ命スルコトヲ得
前二項ニ規定スル命令アリタル後第一項ノ代理人又ハ前項ノ當事者、參加人、特許異議申立人若ハ代理人ノ特許局ニ對シテ爲シタル行爲ハ之ヲ無効ト爲スコトヲ得

第二十條 特許局ニ對シ爲スヘキ事項ノ代理業ハ辨理士ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二十一條 數人共同シテ特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者又ハ特許權ノ共有者ハ特許局ニ對シ各人互ニ代表スルモノトス但シ特ニ代表者ヲ定メ特許局ニ届出テタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條ノ規定ハ前項但書ノ代表者ニ付之ヲ準用ス

第二十二條 特許權者帝國內ニ住所ヲモ居所ヲモ有セサルトキハ第十六條第二項ノ代理人ノ住所又ハ居所、其ノ代理人ナキモノニ在リテハ特許局ノ所在地ヲ以テ民事訴訟法第十七條ノ財

產所在地ト看做ス

第二十三條 特許局長^{○官}ハ外國又ハ遠隔若ハ交通不便ノ地ニ在ル者ノ爲請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ特許局ニ對シ手續ヲ爲スヘキ法定ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第二十四條 出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲シタル者之ニ關スル爾後ノ行爲ニ付指定ノ期間ヲ懈怠シタルトキ又ハ登録ヲ受クル際納付スヘキ特許料ノ納付ヲ怠リタルトキハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外特許局長^{○官}ハ其ノ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ無効ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ無効ト爲シタル場合ニ於テ其ノ期間ノ懈怠カ宥恕スヘキ障礙ニ因ルモノト認ムルトキハ其ノ障礙ノ止ミタル日ヨリ十四日以内ニシテ其ノ期間滿了後一年以内ノ請求ニ依リ特許局長^{○官}ハ懈怠ノ結果ヲ免レシムルコトヲ得

第二十五條 天災其ノ他避クヘカラサル事變ニ因リ法定ノ期間ヲ懈怠シタル場合ニ於テ其ノ障礙ノ止ミタル日ヨリ十四日以内ニシテ其ノ期間滿了後一年以内ノ請求ニ依リ特許局長^{○官}又ハ審判長ハ懈怠ノ結果ヲ免レシムルコトヲ得但シ第七十四條ニ規定スル特許異議ノ申立期間ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 特許局ニ差出スヘキ書類其ノ他ノ物件ニ付差出ノ效力ヲ生スヘキ時期ニ關シテハ

命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ特許權者又ハ特許ニ關スル權利ヲ有スル者ノ爲シタル又ハ其ノ者ニ對シ爲サレタル手續ノ效力ハ其ノ特許權又ハ特許ニ關スル權利ノ承繼人ニ及フ

第二十八條 特許局ニ事件ノ繫屬中ニ於テ特許權又ハ特許ニ關スル權利ノ移轉アリタルトキハ特許局ハ承繼人ニ對シ手續ヲ續行スルコトヲ得

第二十九條 本法ニ規定スルモノノ外特許局ニ繫ル手續ノ中斷中止及中斷中止シタル手續ノ續行ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 特許ニ關シ證明、特許證ノ複本、書類ノ謄本若ハ圖面ノ調製ヲ求メ又ハ書類ノ閱覽若ハ謄寫ヲ爲サムトスル者ハ特許局長^{○官}ニ之ヲ申請スルコトヲ得但シ特許局長^{○官}ニ於テ秘密ヲ要スト認ムルモノニ付テハ之ヲ許可セス

第三十一條 軍事上秘密ヲ要スル發明ニ付テハ本法ニ規定スルモノノ外命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三十二條 外國人ニシテ帝國內ニ住所ヲモ營業所ヲモ有セサルモノハ條約又ハ之ニ準スヘキ

モノニ規定アル場合ヲ除クノ外特許權又ハ特許ニ關スル權利ヲ享有スルコトヨ得ス

第三十三條 特許ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第二章 特許權

第三十四條 特許權ハ登録ニ依リ發生ス

第三十五條 特許權者ハ物ノ特許發明ニ在リテハ其ノ物ヲ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有シ方法ノ特許發明ニ在リテハ其ノ方法ヲ使用シ及其ノ方法ニ依リテ製作シタル物ヲ使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有ス

新規ナル同一ノ物ハ同一ノ方法ニ依リテ製作シタルモノト確定ス

特許權カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル實用新案權ト牴觸スル場合又ハ特許發明カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル登録實用新案ヲ利用スルモノナル場合ニ於テハ特許權者ハ實用新案權者ノ實施許諾アルニ非サレハ其ノ許特發明ヲ實施スルコトヲ得ス

第三十六條 特許權ノ效力ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ及ハス

- 一 研究又ハ試験ノ爲ニスル特許發明ノ實施
- 二 單ニ帝國內ヲ通過スルニ過キササル運輸具又ハ其ノ裝置

三 特許出願ノ際ヨリ帝國內ニ在ル物又ハ第一號ノ實施ニ依リ製作シタル物

第三十七條 特許出願ノ際現ニ善意ニ帝國內ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ特許發明ニ付事業ノ目的タル發明範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

第三十八條 特許ノ無效審判請求ノ登録前善意ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ帝國內ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ特許發明ニ付事業ノ目的タル發明範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

- 一 同一發明ニ對スルニ以上ノ特許中其ノ一カ無効ト爲リタル場合ニ於ケル登録ヲ受ケタル原特許權者
- 二 特許ヲ無効トシ同一發明ニ付正當權利者ニ特許ヲ與ヘタル場合ニ於ケル登録ヲ受ケタル原特許權者

三 前二號ニ掲クル場合ニ於テ其ノ無効ト爲リタル特許權ニ付實施權ヲ得テ其ノ登録ヲ受ケタル者但シ實施權カ登録ナキモ第五十二條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登録アルヲ要セス
特許出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ特許權ト牴觸スル實用新案權ノ存續期間滿了シタル場合ニ於テ其ノ實用新案權ニ付實施權ヲ得テ登録ヲ受ケタル者ハ其ノ特許發明ニ付原

實施權ノ範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス但シ原實施者カ登録ナキモ實用新案法第十三條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登録アルヲ要セス

特許權者ハ前二項ノ規定ニ依ル實施權者ヨリ相當ノ補償金ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第三十九條 特許出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ特許權ト牴觸スル實用新案權ノ存續期間満了後ニニ於ケル原實用新案權者ハ其ノ特許發明ニ付原權利ノ範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

第四十條 特許發明カ軍事上秘密ヲ要シ又ハ軍事上若ハ公益上必要ナルモノナルトキハ特許權ヲ制限シ若ハ政府ニ於テ收用シ、特許ヲ取消シ又ハ政府ニ於テ特許發明ヲ實施スルコトヲ得

特許權ノ收用アリタルトキハ其ノ特許發明ニ關スル特許權以外ノ權利ハ消滅ス

第一項ノ規定ニ依ル制限、收用、取消又ハ實施ノ場合ニ於テハ政府ハ相當ノ補償金ヲ特許權者又ハ實施權者ニ支給ス

收用、實施及補償金支給ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條 特許アリタル後ニ於テ引續キ三年以上正當ノ理由ナクシテ其ノ發明カ帝國内ニ適

當ニ實施セラレサル場合ニ於テ公益上必要アルトキハ特許局長^{○官}ハ利害關係人ノ請求ニ依リ其ノ實施權ヲ許與シ若ハ其ノ特許ヲ取消シ又ハ職權ヲ以テ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

特許權者又ハ請求人ハ前項ノ規定ニ依ル實施權許與若ハ特許取消ノ處分又ハ前項ノ請求ノ却下ニ對シ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ實施權ヲ許與スル場合ニ於テハ特許局長^{○官}ハ補償金ニ付テモ亦之カ決定ヲ爲スヘシ

第四十二條 前條ノ規定ニ依リ實施權ヲ取得シタル者適當ニ其ノ特許發明ヲ實施セサル場合ニ於テハ特許局長^{○官}ハ利害關係人ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其ノ實施權ヲ取消スコトヲ得

實施權者又ハ請求人ハ前項ノ規定ニ依ル取消ノ處分又ハ前項ノ請求ノ却下ニ對シ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第四十三條 特許權ノ存續期間ハ出願公告アリタル場合ニ在リテハ其ノ出願公告ノ日ヨリ、出願公告ナカリシ場合ニ在リテハ特許ノ日ヨリ十五年ヲ以テ終了ス

第十條ノ規定ニ依リ正當權利者ニ特許ヲ與ヘタル場合ニ於テ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル特許出願ニ付願公告アリタルトキハ前項ノ十五年ノ期間ハ其ノ出願公告ノ日ノ翌日

ヨリ之ヲ起算ス

第十一條ノ規定ニ依リ正當權利者ニ特許ヲ與ヘタルトキハ第一項ノ十五年ノ期間ハ無効ト爲
リタル特許ノ出願公告ノ日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

追加ノ特許權カ獨立ノ特許權ト爲リタルトキハ其ノ存續期間ハ原特許權ノ殘期間トス第五十
三條第二項ノ規定ニ依ル各別ノ特許權ノ存續期間ニ付亦同シ

特許權ノ存續期間ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ三年以上十年以下之ヲ延長スルコトヲ得

第四十四條 特許權ハ制限ヲ附シ又ハ附セスシテ之ヲ移轉スルコトヲ得

特許權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓
渡スルコトヲ得ス

第四十五條 特許權ノ移轉、拋棄ニ依ル消滅若ハ處分ノ制限又ハ特許權ヲ目的トスル質權ノ設
定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ハ其ノ登録ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗
スルコトヲ得ス

第四十六條 追加ノ特許權ハ原特許權ニ附隨ス

第四十七條 特許權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ契約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲ササルトキ

ハ他ノ共有者ノ同意ヲ要セスシテ特許發明ヲ實施スルコトヲ得

第四十八條 特許權者ハ特許發明ノ實施ヲ他人ニ許諾スルコトヲ得

特許權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ特許發明ノ實
施ヲ他人ニ許諾スルコトヲ得ス

第四十九條 特許權者ハ他人ノ特許發明又ハ登録實用新案ヲ實施スルニ非サレハ自己ノ特許發
明ヲ實施スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ他人カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ
又ハ其ノ他人ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得但シ他人ノ特許
發明ノ實施ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ實施セラルヘキ發明ノ特許權發生ノ日ヨリ三年ヲ經過
セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ特許發明ヲ實施セラルル者其ノ實施ヲ必要トスル相手方ノ特許發明ニ付實
施ノ許諾ヲ求メタル場合ニ於テ其ノ相手方カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ
其ノ相手方ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得

第五十條 第四十一條又ハ前條ノ規定ニ依ル實施權者ハ特許權者又ハ實用新案權者ニ對シ相
當ノ補償金ヲ支拂フヘシ

前項ノ實施權者ハ補償金ノ支拂ヲ爲シ又ハ支拂ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ供託ヲ爲スニ非サレハ其ノ特許發明又ハ登錄實用新案ヲ實施スルコトヲ得ス但シ第四十一條ノ決定、審決定ハ判決ノ確定前ト雖決定、審決又ハ判決ニ依ル補償金ニ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ實施スルコトヲ得

第五十一條 第四十九條ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ特許權ニ附隨ス

特許發明ノ實施權ニシテ前項ノ實施權ニ非サルモノハ其ノ實施ノ事業ト共ニスル場合又ハ特許權者ノ承諾アル場合ニ於テハ之ヲ移轉スルコトヲ得

第五十二條 特許發明ノ實施權ハ之ヲ登録シタルトキハ其ノ特許權ヲ爾後取得シタル者及其ノ特許權ヲ目的トスル爾後設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第十四條第二項又ハ第三十七條乃至第三十九條ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登録ナキ場合ト雖前項ノ效力ヲ有ス

第四十九條ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登録前設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第四十五條ノ規定ハ實施權ノ移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限又ハ實施權ヲ目的トスル質權

ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ニ付之ヲ準用ス

第五十三條 特許權者ハ特許發明ノ明細書又ハ圖面カ不完全ニ作製セラレタルコトヲ發見シタルトキハ左ノ各號ノ一ニ掲クル事項ヲ目的トスル場合ニ限り其ノ明細書又ハ圖面ノ訂正ノ許可ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

一 特許請求範圍ノ減縮

二 誤記ノ訂正

三 不明瞭ナル記載ノ釋明

特許權者ハ錯誤ニ因リ二以上ノ發明ヲ一特許出願ニ包含セシメタルコトヲ疏明シタル場合ニ限り各發明毎ニ各別ノ特許權ヲ爲スノ許可ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

第一項第一號ノ場合ニ於テハ其ノ殘部、前項ノ場合ニ於テハ其ノ各發明カ特許出願ノ際獨立シテ新規ノ發明ナルコトヲ要ス

第五十四條 前條ノ場合ニ於テハ特許請求範圍ヲ實質上擴張シ又ハ實質上變更スルコトヲ得ス

第五十五條 特許權者ハ制限附移轉ノ特許權ヲ有スル者、質權者又ハ第十四條第二項若ハ第四十八條ノ規定ニ依ル實施權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ特許權ヲ拋棄シ又ハ第五十三條ノ規定

ニ依ル許可ノ審判ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五十六條 先取特權又ハ質權ハ本法ニ依リ受クヘキ補償金其ノ他特許權ノ對價又ハ特許發明ノ實施ニ對シテ受クヘキ金錢若ハ金錢以外ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第五十七條 特許カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

一 特許カ第一條乃至第三條、第八條又ハ第三十二條ノ規定ニ違反シテ與ヘラレタルトキ

二 特許カ特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ特許ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ニ對シテ與ヘラレタルトキ

三 特許發明ノ明細書又ハ圖面ニ其ノ實施ニ必要ナル事項ヲ故意ニ記載セス又ハ其ノ實施ヲ不能若ハ困難ナラシムル爲必要ナラサル事項ヲ故意ニ記載シタルトキ

四 特許カ第三十三條ニ規定スル條約又ハ之ニ準スヘキモノニ違反シテ與ヘラレタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至前號ニ掲クルモノニ準スヘキモノナルトキ

五 特許カ第三十二條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特許カ第三十三條ニ規定スル條約若ハ之ニ準スヘキモノニ違反スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至第三號ニ

掲クルモノニ準スヘキモノナルトキ

第五十三條ノ許可カ同條第三項又ハ第五十四條ノ規定ニ違反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

特許又ハ第五十三條ノ許可ハ特許權消滅後ト雖前二項ノ規定ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

第五十八條 特許カ無効ト爲リタルトキハ特許權ハ初ヨリ存在セザリシモノト看做ス但シ前條

第一項第五號ノ規定ニ依リ特許カ無効ト爲リタルトキハ特許權ハ特許カ同號ニ該當スルニ至リタル時ヨリ存在セザリシモノト看做ス

第五十三條ノ許可カ無効ト爲リタルトキハ初ヨリ許可ナカリシモノト看做ス

特許ノ取消又ハ第四十二條ノ規定ニ依ル實施權ノ取消アリタルトキハ特許權又ハ實施權ハ爾後其ノ效ナキモノトス

第五十九條 特許權ハ相續人ナキトキハ消滅ス

第六十條 特許カ取消サレ若ハ無効ト爲リ又ハ特許權カ消滅シタル場合ニ於テ追加ノ特許權アルトキハ其ノ追加ノ特許權ハ獨立ノ特許權ト爲ル第六十九條第二項ノ規定ニ依リ特許權カ消滅シタルトキハ同條第一項ニ規定スル追納期間ノ滿了ノ時獨立ノ特許權ト爲ル